

# 學 報

Kobe College Bulletin

ISSN0389-164X

NO. 185

2019. 3. 14

神戸女学院

学報委員会

## 変えてはならぬもの・変えるべきもの

中学部・高等学部 部長 林 真理子

2018年度は、建学以来多くの方の祈りと献身に支えられてきた本学の歴史を確認し、150周年の節目に向け、変えてはならぬものと変えるべきものを識別しつつ、将来構想策定に歩みだす1年となりました。中高部の歩みで絶対に変えてはならぬものは、建学の精神に基づいたキリスト教教育、生徒の主体的・積極的学びを育むリベラルアーツ教育、卓越した語学力や国際理解力を身につける語学教育、自由と自治の精神です。毎朝オルガンの奏楽に耳を傾け、祈りを合わせ、奨励からインスピレーションを得る全校礼拝は、生徒の成長に不可欠のかけがえない時間です。昨年6月の大阪北部地震後、講堂の耐震補強工事完了までは、生徒の安全確保のため放送礼拝が続いたのでなお一層、講堂での全校礼拝がいかにかけがえないものか痛感しました。外部講師の奨励で聖書について学ぶだけではなく、教員・卒業生・上級生の真摯な人生体験についての話から「人生の先輩にも、私と同じように悩み、自己肯定感が下がり、葛藤されていた時期があったのだ。しかしその苦しみの中にこそ貴重な学びがあった。支えてくださる多くの人や神様の導きに気づき、解決への糸口が備えられていると確信できるようになった。」という生徒が多いのです。その結果、奨励担当になると、低学年では初々しい感性で、高学年では堂々とした語り口で、全校で分かち合いたい学びや発見の喜びを、そこに至る模索の日々の苦しみを、全力で語ります。パイプオルガンの音楽礼拝で音楽学部ご出身のオルガニストの素晴らしい演奏を聴き、刺激を受けて奏楽の奉仕をしてくれる生徒も数



多くいます。3学期には講堂2階のパイプオルガンのパイプが強い揺れで飛び出さぬようにする工事も完了しました。2階座席最前列の安全についても今後検討したいと存じます。

リベラルアーツ教育は教員の熱心な指導によって支えられています。最近では長期休暇や休日を利用して有志生徒対象の校外学習を計画する教員が増えました。参加生徒は教科書の受動的学習で終わることなく、興味ある科学・地歴公民・文学等の分野の社会活動に積極的に関わり、飽くなき知的好奇心で新

しい分野に挑戦しています。「探究」と呼ばれる総合学習もさかんで、中1ではビブリオバトルや神戸女学院調べ等の基礎学習、中2以上の当該学年の生徒は、各自の興味ある分野についての自由研究をしています。長期休暇を利用した校外フィールドワークやアンケート等趣向を凝らし、社会活動に連動させた学習に発展させている生徒が多くなっています。優秀作品は全校礼拝・文化祭・キャンパス見学会で発表していただいています。多様なテーマ設定、個性的なプレゼン方法に、生徒たちの取り組みの深化を確信しています。

授業での学びを基礎に、様々な分野に果敢に挑戦する生徒も多くなってきました。最近、兵庫県下の私立中学・高等学校に在籍し、全国大会1位ないしは国際大会3位以内の生徒に授与される「マロニエ賞」の受賞生徒が増えてきました。2000年に全国高等学校総合体育大会水泳競技大会女子100メートル平泳ぎで第1位を獲得した生徒を皮切りに、最初のうちは2、3年に一度、英語スキットコンテスト最優秀や化学オリンピック世界大会金メダル、国際哲学倫理オリンピック国内予選グランプリ等で受賞する生徒がいました。2013年度からは連続受賞しており、分野もヨーロッパ女子数学オリンピック、数学甲子園、英語ディベート、模擬国連、英語エッセイコンテスト、World Scholar's Cup、書道、スポーツチャンバラと多岐にわたっています。卒業生の奨学金提供というサポートも追い風になっています。受賞という成果や栄誉にこだわらず、のびのびそれぞれの興味を追究し続け、「継続は力なり」の意味を自分のやり方で問い続けてほしいと思います。

上記受賞生の多くが語学力を伸ばし、様々な分野の国際大会で英語で問題を解いたり、他国からの参加者とコミュニケーションをしています。夏休みに校内で実施している「英語エンパワーメントプログラム」も4回を数えましたし、オーストラリアの姉妹校 MLC やアメリカの St. Croix 高校での海外研修プログラムも、受け入れ国の皆様のご協力を得ています。MLC への半年の留学や1か年の長期留学をする生徒もいますし、高等学部では毎年海外からの留学生を迎え、クラスメート・部活仲間として交流しています。著名な歌手、レーナ・マリア氏による、英語のお話を交えたコンサートを鑑賞す

る機会もありました。クルーメソッドを基礎とする英語教育は不変ですが、2020年大学入試改革で英語に民間テストが導入されることを受け、高等学部生徒には従来の TOEFL ITP に加え、GTEC の受験機会も提供して、4技能の力を確認してもらっています。中学部では話す力の一層の向上を目指し、きめ細かい授業を展開しています。授業の時間だけでなく学校生活や校外活動でも英語を用い、多様な文化や考え方に触れる姿勢を身につける機会を提供できるよう今後も全力を尽くします。

生徒たちは、学校行事や自治会活動において「自由と自治」を大切な神戸女学院の文化として継承し、折に触れてその意味や自分たちに課せられている責任について議論を重ねています。体育祭の各競技や学年対抗パフォーマンス・讚美歌コンクール等の練習や、J1 デイキャンプ・文化祭・キャンパス見学会等の準備も周到かつ情熱をこめて取り組んでいます。学校見学を訪れる小学生はきびきび楽しそうに活動する在校生の姿を見て、「自分もあんなキラキラした中高生になりたい。」と憧れを抱くようです。学校生活の活気の源である自由と自治をこれからも吟味し、発展させていきたいと存じます。

このように目に見えぬ、しかしかけがえのない賜物に支えられている中高部ですが、時代の流れの中で柔軟に変えるべきものを変える勇気を持たねばなりません。2020年の大幅な教育改革・大学入試改革や、教員の長時間労働問題への対応は喫緊の課題です。導入が決定されているeポートフォリオに対応し、高等学部での生徒活動記録をデジタル化して生徒各自で保存するためのプラットフォームとして、今年度から Classi を導入しました。教員も生徒も効果的に使いこなせるよう、システムについての学習と習慣づけを徹底していく必要があります。教員の長時間労働解消については、教育の質は落とさず無駄を省き、より効率的に教育活動をおこなうべく、保護者・生徒のご理解を得て議論を重ねていきたいと存じます。引き続き皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

## KCCだより

[コーベ・カレッジ・コーポレーション (KCC) は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のために設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体 (NPO) です。以来、日米両国の学生生徒ならびに教員のために、さまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援を行い、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCCはその活動範囲を拡大するために、名前の後に“Japan Education Exchange”という副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。今回は、来年100周年を迎えるKCCの現在の理事メンバーそれぞれの自己紹介を、学院評議員もしてくださっている水野多美さんがまとめてくださいました。]

### 創立100周年に向けてメンバーを紹介します

KCC-JEE 理事、  
学校法人神戸女学院評議員

水野 多美

KCC-JEE は、2020年に創立100周年を迎えようとしています。

KCをサポートするアメリカ・シカゴにある NPO として、このような小さな団体が続いてきたことは、卒業生にとって、特にアメリカ在住者として本当に有難いことと思います。また、母校の国際的な繋がりの深さを誇らしく感じます。

現在、13名のボランティア理事、事務係、その他、アメリカ在住の KC 卒業生など、運営を支えてくださる多くの方々がいらっしゃいます。年次総会@シカゴ、米国内の時差3時間の中で公式に年2回の電話会議、その他コミッティ毎のミーティングなどの活動を通し、KCへは、英語教師、インターン体験・留学など、他校とは違う体験ができる機会作りをお手伝いしています。

では、ボランティア理事メンバー13名と事務係竹中香苗さんを以下のとおり、質問に各メンバーからご回答いただきましたので、ご紹介させていただきます。

1月には、極寒のシカゴとなり、東海岸も冷え込みました。この便りが届くころには、暖かい季節がくると楽しみにしています。

2018.9.14 シカゴのユニオン・リーグ・クラブにて



From L top to R:

Cindi SturtzSreetharan, Go Sugiura,  
Angie Gaspar,  
Takuzo Ishida, Ken Tornheim, Chise Koyama,  
Tami Mizuno, Elizabeth Hartung-Cole,  
Marnie Jorenby  
Yuki Ohigashi, Roberta Wollons,  
Jeanne Sokolowski, Mrs. Naoko li,  
Dr. Ken li, Eric Fulcomer

- Q 1 name : 氏名  
Q 2 Since when did you join the board? :  
いつから理事として活動しているか? 担当  
役は?  
Q 3 What are you doing as a daily life? :  
日常生活では何をしていますか?  
Q 4 Relationship to KC : 神戸女学院との関わり  
は?  
Q 5 What are the happiest things? :  
何をすることが一番幸せですか?  
Q 6 Any Comments :  
何かコメントがございましたら?

1. Roberta Wollons
2. Joined in 1997; have been Program Chair, served on Grad Fellowship committee; currently president of the board
3. I teach History at the University of Massachusetts, Boston, where I was the chair of the department for 9 years.
4. I did research at KC on the history of the founders and missionary history, and taught at

Doshisha University in Kyoto for 5 years in their graduate program in American Studies.

5. I enjoy working with my students, and in my spare time being an amateur potter.
1. ロベルタ ウォロンズ
  2. 1997年から理事。プログラム部の委員長を経て2016年に 理事会会長就任。グラデュエートフェローシップ委員会
  3. ボストンに在るマサチューセッツ大学にて歴史を教えており、学部長を9年間勤めた。
  4. KC 創始者、宣教師の歴史などを研究し、京都、同志社大学にて修士課程でのアメリカ研究を5年間教えた。
  5. 学生たちと研究することを楽しんでいる。空き時間には、アマチュアの陶芸家として作品作り。

1. Ken Tornheim
2. 2012. V. P. Finance; Finance Committee
3. Partner in a Chicago CPA firm.
4. None prior to becoming a Board member. My prior relationship was strictly with KCC-JEE in a professional capacity as the organization's CPA firm conducting their annual financial statement audit.
5. International leisure travel with my family.
6. I am a strong proponent of cross cultural relations between the United States and Japan.

1. ケン トーンハイム
2. 2012年～。財務担当副会長。
3. シカゴに在る会計事務所のパートナー
4. KCC とは、会計事務所での年次監査の仕事を通じて会計士として知り合った。
5. 家族と共に海外旅行を楽しむこと。
6. 日米文化交流の強力な支持者です。  
注：KC のホストファミリー先としても奥様とご一緒にご協力いただいています。

1. Tami Mizuno
2. 2014. VP Admin-Secretary 2018-
3. Working w/ Japanese Pharmaceutical Company as Admin Staff, live in NJ.
4. Graduated KC College. Sister, Cousin, Old friends are Alumnae.
5. Taking a Tea Lesson at URASENKE NY Center wearing KIMONO.

6. Toward to 100th anniversary, I would like to introduce the KCC-JEE Board members again through KC DAYORI NEWS.

1. 水野 多美
2. 2014年より理事、2018年から 総務秘書担当副会長
3. ニュージャージー在住で、日系製薬会社の総務担当として勤務
4. 神戸女学院大学（スキー部）を卒業。妹、いとこ、幼馴染みなども卒業生。
5. 裏千家ニューヨークセンターにて着物を着てお稽古できること、ただし、正座はつらい！
6. KCC 100周年記念、2020年に向けて張り切っている理事の皆様、いつも助けていただいている香苗さんを KCC 便りでご紹介させていただきました。

1. Cindi SturtzSreetharan
2. 2003; Chair of Graduate Fellowship Committee; Chair of Bryant Drake Guest Professor Committee; VP of Programs
3. Professor of Anthropology (topics include language, culture, health, and Japan)
4. I was one of the original Graduate Fellowship recipients in 1998.
5. Spending time with my family and watching Japanese movies.
6. I am honored to maintain close ties with Kobe College Faculty who have been a constant source of support and encouragement both personally and professionally.

1. シンディ シュツルト スリザラン
2. 2003年から理事。プログラム担当副会長、グラデュエートフェローシップ委員会／委員長、ブライアント ドレーク客員教員派遣委員会／委員長
3. 言語、文化、ヘルス、日本を含む人類学教授
4. 1998年にグラデュエートフェローシップの受賞者
5. 家族と共に過ごし、邦画を見るひと時が至福の時間
- 6.公私ともにサポートしてくださる KC 教職員の皆様との繋がりを誇りに思う。

1. Chise Koyama
2. June 2017. VP Development; Internship

Program Committee

3. Product Manager, specializing financial derivatives data at Bloomberg L.P. in New York City
4. Alumni-101E105
5. Eating good food with great friends
6. My life is no longer quiet as I have a dog now. This is an update to sangyo dayori to be found in our next Megumi Kai Shi.

1. 小山 千世
2. 2017年から理事。デベロップメント担当副会長、インターンシップ委員会
3. マンハッタンに在るブルームバーグ社プロダクトマネージャーとして、特に財務デリバティブデータを専門とする。
4. 中、高、大の卒業生
5. 素敵な友人たちと美味しいものをいただいている時
6. めぐみ会誌にも3行便りでお知らせしているように、最近、犬を飼い始めて静寂な日々が無くなった。

1. Angie Gaspar
2. Joined in 2009. Chair of High School Essay Contest, Internship Committee, Annual Meeting Planning Committee and Communications Committee (newsletter)
3. ESOL Teacher
4. Great-great-great niece of CO-founder of Kobe College, Julia Dudley
5. Happy Memory: Traveling with my family to Japan and showing my kids where I lived in Kyushu when I was on the JET Program and also bringing them to Kobe College!

1. アンジー ガスパー
2. 2009年から理事。高校エッセイコンテスト委員会／委員長、インターンシップ委員会、100周年記念会合委員会、ニュースレター担当
3. ESOL 教師 English for Speakers of Other Languages
4. KC 創始者ジュリア・ダッドレー先生が、大、大、大、叔母様に当たる。
5. 日本への家族旅行で、JET プログラムで過ごした九州、KC へ子供たちを連れて行ったことが思い出に残る。

1. Eric Fulcomer
2. 2018
3. President of Rockford University
4. One of the founders of KC was a Rockford University graduate and Rockford University has a long-time student exchange program in place.
5. I have visited KC twice and admire the beautiful campus and the wonderful faculty, staff, and students there. I also enjoy meeting the Kobe College students who attend Rockford University each year.
6. I appreciate Kobe College and am pleased to be a part of the Kobe College Corporation Board.

1. エリック フルカマー
2. 2018年から理事。
3. ロックフォード大学学長
4. KC 創始者の一人がロックフォード大学の卒業生であったこと、大学では長い間、KC と交換留学を行っている。
5. 今までに2回 KC を訪問しており、美しいキャンパス、そこで会った教職員、学生たちに感銘を受けた。毎年 KC から来る留学生たちに会うことも楽しみの一つ。
6. KC との関係を大切に思うし、理事の一人として KCC へ参加していることを嬉しく思っている。

1. Elizabeth Hartung-Cole
2. Appointed to Board 2018 Committees: Gottschalk Teachers; Essay Contest
3. Retired from 30 years of being an English as a second language teacher, teacher-trainer, and administrator in inner-city high schools in Los Angeles. Now privately training ESL teachers at districts, colleges and professional organizations.
4. I taught at Kobe Jogakuin High School for four years at the beginning of my career and continue to enjoy communicating with former colleagues and students.
5. Relaxing in the nature of Maine, hosting Japanese students, and visiting my daughter, a Middle East policy analyst in Washington, DC
6. I am so honored to be a member of KCC-JEE

1. エリザベス ハートングコール
2. 2018年より理事。ガッチョック英語教師リクルート委員会、高校エッセイコンテスト委員会
3. 30年間 ESL の先生としてロサンゼルス近隣で教員をしていたがリタイア。現在は、地域、大学、専門学校などで ESL を個人的に教えている。
4. 最初のキャリアとして4年間、KC 高等部で教え、生徒や元同僚との交流を続けている。
5. メイン州にて自然の中でのんびりすること。日本人学生のホストをすること、ワシントン DC に住む中東政策アナリストの娘を訪問すること。
6. KCC のメンバーであることに誇りを感じる。

- 
1. Takuzo Ishida
  2. I joined KCC US-Japan Symposium Planning Committee in 1995.  
I served as a KCC board member from 1998 through 2008, and from 2010 through today.
  3. I retired from company job as a research scientist in 2007.  
I currently work for four NPOs as a board member and, or an officer.  
I enjoy hobbies, for instance, J. S. Bach, gardening, bonsai, woodworking, ceramic & porcelain, etc.
  4. I have no personal relationship with KC. However, I have lot of respects for KC persons whom I have ever met.
  5. When I am enjoying music by J. S. Bach.
  6. It has been a privilege to work for KCC and KC. I think that KCC has outstanding missions and programs as a private foundation to support KC although it is relatively a small organization. I think that KCC is able to maintain the missions as it is in the future.

1. 石田 卓三
2. 1998年から理事。1995年 KCC 日米シンポジウムプランニング委員会に参加したことがきっかけ。
3. 2007年に研究者としての企業勤務からリタイアして、現在は、NPO など4か所で理事、役員として働いている。バッハ、ガーデニング、盆栽、木工、陶芸など、多彩な趣味をたのしむ。
4. KC との個人的な繋がりはないが、今までに会った KC の人たちに大いなる敬意を持っている。

- る。
5. バッハの音楽を楽しむこと
6. KC および KCC へのご奉仕できることは、たいへん名誉なことです。KC という比較的小さな組織をサポートするプライベート団体として KCC は多大なミッションとプログラムを抱えていると思う。

- 
1. Marnie Jorenby
  2. I joined in 2005. I designed the website and am on the Publications/website committee. I have helped with the Gottschalk Teachers program in the past, hosted students from the High School twice, and hosted two interns. I facilitated the Sketchy Artist internship in Northfield, MN.
  3. I am a teacher of Japanese language at the University of Minnesota and I like to write novels in Japanese.
  4. I was awarded the graduate fellowship in 2000, and I served as a Gottschalk Teacher from 2012-2014.
  5. What is the happiest thing? I love to work with young people and learn what they are thinking.
  6. I am proud to be part of an organization that is about to celebrate its 100th birthday!

1. マーニー ジョレンビー
2. 2005年より理事。KCC のウェブサイトのデザイン担当、KC の学生・インターンのホストの経験有り。MN Northfield に在る Sketchy Artist でのインターンの運営など行った。
3. ミネソタ大学の日本語教師で、日本語で小説を書く。
4. 2000年にグラデュエートフェローシップを受賞。ガッチョック英語教師として2012年-2014年 KC にて勤務。
5. 若い人たちと働くことが好きで、若い彼らが考えていることを学ぶことが楽しい。
6. もうすぐ100歳の誕生日を迎える KCC メンバーであることに誇りを感じる。

- 
1. Yuki Ohigashi
  2. 2013; I've been involved with the Gottschalk Teacher Recruitment Committee since 2012
  3. I'm a stay-at-home mom of a three-year-old son. Before that, I was doing research on Influenza viruses. I'm also a volunteer staff with

the Graduate and Faculty Ministries of Inter Varsity Christian Fellowship.

4. I graduated from KCHS in 1992. Many of my relatives, including my mother and her mother, are also KC alumnae.
5. To see a spiritual growth in people around me.
6. The connections that we can have through KC and KCC-JEE in the US are wonderful. I have been supported and encouraged by so many KC alumnae, and by learning how deeply the people who have been involved with KCC-JEE have cared about KC and its students.

1. 大東（おおひがし）由季
2. 2012年より理事。ガッチョック英語教師のリクルート委員会
3. 現在は、3歳男児の子育てをしている専業主婦。以前は、インフルエンザウイルスの研究をしていた。また、インターパーシティーというアメリカの数々の大学のキャンパスにあるクリスチャンの学生グループ（日本では、KGKキリスト者学生会）のボランティアスタッフとして、大学院生、教職員のミニストリーに関わっている。
4. 1992年に中高部を卒業しました。また、母、祖母を含む家族、親戚も大勢神戸女学院の卒業生。
5. 周りの方々の霊的成長を見るとき。
6. アメリカで、神戸女学院、又、KCC-JEEを通して与えられるいろいろな方との出会いはとても素晴らしいです。大勢の神戸女学院卒業生、そして本当に神戸女学院、その生徒のことを思ってください（くださった）KCC-JEEの方々に、支えられ、励まされてきた。

1. Jeanne Sokolowski
2. From 2005-2008; 2013-present. Gottschalk Teachers committee; Graduate Fellowship committee; Annual Meeting Planning Committee; Publications/ Website; Development Committee
3. I am the director of the Office of National Fellowships at the University of New Hampshire. I assist and support students who apply for major nationally competitive scholarships like the Rhodes scholarship, Fulbright, etc.
4. Former Gottschalk teacher (1997-2000)

5. I am part of a quilting guild here in New Hampshire!
6. I've been able to connect with several former students who have visited or are living in the U.S.! It's so gratifying to see them able to use their English language skills professionally!

1. ジーン ソコワスキー
2. 2005年～2008年、2013年から再任。ガッチョック英語教師リクルート委員会、グラデュエートフェロシップ委員会、年次総会プランニング委員会、広報／ウェブサイト委員会、デベロップメント委員会。

注：毎年、年次総会前にご案内のカードを郵送していますが、そのカードのデザイン作者。

3. ニューハンプシャー州大学のナショナルフェロシップ事務局の局長で、フルブライト、ローデス奨学金など競争率の高い奨学金を獲得しようとする学生をサポートしている。
4. 1997年～2000年、ガッチョック英語教師としてKC勤務。
5. ニューハンプシャーに在るキルト製作ギルドのメンバーであること。
6. KCの教え子たちが、アメリカ訪問の機会や、あるいはUS在住となり、交流が続いており、彼女たちのプロフェッショナルとしての語学力に接することは満足な気持ちになる。

1. Go Sugiura
2. 2005. Chair of Board Development Committee; Finance Committee; Essay Contest Committee.
3. I live my life as a retired business executive, with a plenty of time in my hand. I spend part of my time for the church we belong to, I was busy as year as a chair of Stewardship Ministry, the annual fund-raising campaign within the church. I do my physical exercise regularly, mainly swimming at a local YMCA. When the warm weather comes, I play golf once or twice a week. Traveling domestically, as well as internationally, is another way of enjoying our leisurely retirement life.
4. My wife, as well as her mother and several others in our family are graduate of Kobe College. My grandmother was the very first graduate of the school.
5. My wife and I are most grateful that we are

blessed with good health at our age, (very senior), which allows us to enjoy our activities, such as traveling, golfing, etc.

1. 杉浦 剛
2. 2005年から理事。ボードデベロップメント委員会／委員長、財務委員会、エッセイコンテスト委員会
3. 既に現役から引退した今日、自由時間に恵まれた毎日を過ごしている。我々の所属する教会の仕事に幾分か時間を費やしている。昨年は教会の募金運動の仕事で可也の時間を費やした。その他健康維持のための運動、主に水泳、その他年間何度かの国内、国外への旅行などで時間を使っている。
4. 家内を始め家族の中に何人かの女学院卒業生がいる。因みに祖母は女学院の第1回卒業生。
5. 家内共々加齢にも拘わらず健康を与えられ旅行やゴルフ、その他の活動に支障を来たされずにいることに感謝している。それが何よりも喜びである。

1. Kanae Takenaka
2. 2015. KCC-JEE Administrator
3. I work as a part timer at KCC-JEE and after that I am a driver for daughters. Work out for 4-5 days per week.
4. N/A
5. Traveling and doing, seeing and eating what I have never experienced before.
6. I would like to visit KC someday.

1. 竹中 香苗
2. 2015年7月から。KCC-JEE 事務
3. KCC-JEE でパートタイムとして働き、その後は娘たちの習い事の運転手。週に4、5日ジムに通う。
4. 特になし。KCC-JEE を通じて関わりを持つように。
5. いろいろなところに旅行して、それまで体験したことのないことをしたり、見たり食べたりすること。
6. いつか神戸女学院を訪れてみたい。

## 2019年度年間標語

恵みの業をもたらす種を蒔け  
愛の実りを刈り入れよ。

(ホセア 10:12)

学院チャプレン 中野 敬一

神戸女学院第3代校長であるブラウン先生の時代に、毎年聖書の一節を選び、これをその年の「年間標語」にすることが始められました。1889年がその最初であり、今年でちょうど130年を迎えます。一つ一つの事柄に歴史の重みを感じています。

さて、創立150周年の節目が近付いている時期に相応しい聖句が与えられました。豊かな刈り入れを迎えるためには、種を蒔く作業が不可欠です。私たちは神の御心を問い続けつつ、自らの務めを再確認することが重要となります。蒔かない所に実りは無いのです。

この聖句の後には「新しい土地を耕せ」という言葉が続きます。既存の恵みに満足するだけではなく、新たに開墾していこうとする気概が求められているように思われます。ただし、闇雲に突っ走ることが奨励されているわけではありません。興味深いことに、「新しい土地を耕せ」という言葉を「灯火を輝かせよ」と訳している聖書があります。先達から受け継いできた知恵の灯りを手がかりとして先へと進むことの大切さが教えられているように思われます。

「愛神愛隣」の灯火を輝かせて、皆様と日々種を蒔く作業に励んでまいりたいと存じます。

## クリスマス報告

### (大 学)

平和を祈りつつクリスマスの時期を迎え、12月21日(金)正午より大学クリスマス礼拝を皆でまもりました。音楽学部による演奏・合唱奉仕の中での讚美礼拝は、主イエスの誕生を祝い、敬虔な気持ちを思い起こします。

今年は芦屋浜教会の塚本潤一先生に「お言葉どおり、この身になりますように」と題してメッセージをいただきました。塚本先生はビートルズの「Let It Be」をどう和訳するかを教えてくださいました。聖書では「Let it be to me according to your word (お言葉どおり、この身になりますように)」と受胎告知の場面で出てきます。これは神への信仰と信頼をしっかりと持っていたからこそ語ることでできた言葉である。人生は平坦なもの、安易なものではなく、寧ろ苦悩や悲しみの中に置かれていることの方が多い、しかしビートルズが歌っているように私たちに素晴らしい神の言葉が与えられている。私たちが困り果てている時、暗闇を彷徨っている時、悲しみに打ちひしがれている時、「Let It Be (お言葉どおり、この身になりますように)」と聖書の言葉を囁いてみること、これこそが私たちへの最高のクリスマスプレゼントであると語られました。

暗闇の中に灯る壇上の蠟燭の光に、キリストの生涯と福音を感じ、人生どのような局面に出会っても、主を信頼し、主に従う者でありたいと願ったひと時となりました。



クリスマス礼拝

### 〈神戸女学院 公開クリスマス礼拝〉

学院全体でまもられる公開クリスマス礼拝は、今年で46年目をむかえました。

学院オルガニストの片桐聖子氏による前奏が講堂に響き渡り始まりを告げました。今年は飯 謙院長から「飼い葉桶に寝かせた」と題してメッセージをいただきました。イエスさまがお生まれになった馬小屋は善意をもって他者を受け入れる行為によるものである。一つ一つはとるに足らない貧しき業だが、それを神様が豊かに用い、導いてくださる。私たちがその輪に加わるように招かれ、恵みを感じることができる。それがクリスマスのメッセージであると語られました。

また、今年は「きよしこの夜」が作曲されて200年となります。オルガンが壊れ、急遽ギターで作曲されたこの曲は、善意から始まり、それを受け止め、引き継いでいく人により、今日まで歌い継がれてきました。愛は静かに現実浸透し、私たちが愛する者へと変えていってくださる。飼い葉桶の前から隣人に愛を捧げる者として旅立っていった羊飼いや東方の賢者たちと同じ招きを受けている私たちが神戸女学院のこの講堂からそれぞれの持ち場に遣える思いを携えて出発していきましょうと語られました。

飼い葉桶での出来事を通して、私たちが愛の担い手としてくださることを、心に刻む者でありたいと願います。

学院全体が大切にまもっているこのクリスマス礼拝は、神戸女学院がキリスト教主義学校であることを強く伝えられる大きな機会であり、共にひとつの祈りのときを持つことができる大切な場です。次年度以降も主の恵みに共に与かるひと時を、神戸女学院に連なる者として、一緒に過ごしていただけるよう祈るものです。

司式：中野 敬一 奨励：飯 謙  
指揮・編曲：松浦 修  
合唱・管弦楽：神戸女学院大学音楽学部  
中学部コーラス指揮：喜多 牧子  
奏楽：片桐 聖子

(チャプレン室)

### 〈プレゼント・献金報告〉

#### ★施設へのプレゼント★

今年も大阪水上隣保館と神戸真生塾、福島にある社会福祉法人 牧人会白河めぐみ学園と白河こひつじ学園へプレゼントをお届けすることができました。神戸真生塾には、J家庭科研究部による手作りの小物とS料理研究部が焼いた名前の入ったクッキーを合わせてプレゼントしております。誰かがあなたのことを思い、支えたいと思いを寄せているその気持ちだけでも子どもたちに伝えることができるよう、これからもおこなっていきたいと思います。

福島には郵送いたしました、神戸真生塾には中高部自治会の方々、大阪水上隣保館には大澤チャブレンが、サンタクローズの代表としてプレゼントを運んでくださいました。合わせて感謝と共に報告させていただきます。

皆様、ありがとうございました。  
(チャブレン室)

### 〈クリスマス燭火讃美礼拝〉

12月18日(火)、冬の凜とした空気に包まれた清朝に恵まれ、今年もリースやツリーで飾られた講堂で燭火讃美礼拝を守ることができました。日常の慌ただしさから隔離されたように静かな講堂で、一同で心と声を合わせて讃美を捧げ、聖書の言葉に耳を傾けてイエス・キリストの誕生を祝う機会が今年も与えられました幸せに、心から感謝しています。

このクリスマス燭火讃美礼拝のために、J・S宗教部、Jコーラス部、S3音楽選択受講者の生徒たちは礼拝の準備を重ねてきました。中高部のクリスマス礼拝は、生徒たちの奉仕の業に支えられながら、クリスマスの物語を追うように、聖書と賛美を重ねてゆきます。

パイプオルガンの前奏、S3音楽選択受講者の生徒たちによる厳かなハンドベルの音色に導かれながら礼拝が始まります。賛美と共に入場する聖歌隊のJコーラス部たちの携えたロウソクの光が、とても美しく煌々と輝き、講堂がクリスマスにふさわしい喜び溢れる雰囲気彩られます。

やがてその光りは、聖書の御言葉と賛美を重ねる中でキリストの誕生の物語を迎え、キリストの光を象徴するクライストキャンドルに点火されます。

まさに、全身でクリスマスの出来事を吟味することのできるクリスマス燭火讃美礼拝を守ることができました。

今年度は、甲子園二葉教会の美濃部信牧師から、「喜んでいる裏側で」と題した奨励をいただき、クリスマスに成された神の御業に改めて心を寄せる一時をもちました。

信仰・希望・愛の光を心に灯しつつ、各自が持ち寄った献金を捧げ、共に祈りを合わせました。このクリスマス燭火讃美礼拝を通して、今一度クリスマスの意味を考え、一人一人が神様と隣人から期待されている役割について、思いを寄せることができましたと感じています。

この年に一度のミッションスクールならではの伝統ある行事は、神戸女学院中高部に集う全ての者の大きな恵みであることを覚え、来年以降も途切れることなく守り続けてほしいと思います。

美しい音楽のご奉仕をくださったS3音楽選択受講者の皆さん、Jコーラス部の皆さん、当日の朝早くからご奉仕くださいましたJ・S宗教部の皆さん、そしてメッセージをとりついでくださった美濃部信牧師に心から感謝申しあげます。ありがとうございました。

(JS宗教部)

史料室の窓(48)

## Amazing Grace

## — 神戸女学院、9 にまつわる物語 —

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

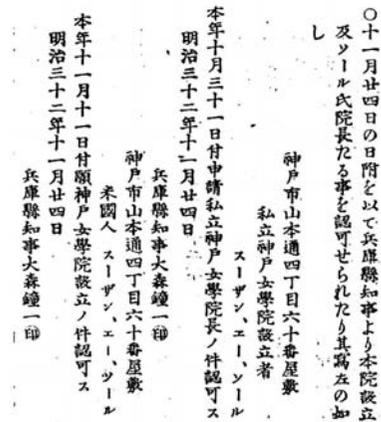
2019年を迎えました。巷では平成最後の年である、とか、ラグビーワールドカップが日本で開催される、とか、いろいろな話が飛び交っていますが、目を「大学」に転じてみると、新制大学発足70周年(神戸女学院は一足早く新制大学になりましたので、昨年2018年が70周年でしたが)の年に当たります。こと、神戸女学院に関して言えば、実は9のつく年はくしくも Memorial Year になっていることがいくつかありますので、それをご紹介しますと思います。

まず最初の出来事は、1879年に起こりました。この年、神戸・山本通で産声をあげた小さな女子のための寄宿学校に正式な校名が付きましました。その名も英和女学校 Girls' School —それまでは、単に女学校 Girls' School (英語名は変わりませんが)と呼ばれていたにすぎなかった Mission School が公に教育機関として名乗りを上げたのです。ですから今年2019年は校名誕生140周年(ちなみに、現在の校名、神戸女学院 Kobe College に改称したのは1894年のことですので今年2019年は校名改称125周年になります)。

次に注目すべきは1899年。この年政府は文部省訓令第12号という法令を出しました。これは教育と宗教の分離を規定するもので、政府公認の学校での宗教教育や宗教行事を禁じています。この規定に従って政府公認の学校になると、キリスト教教育を続けられなくなります。神戸女学院は不利益を被ったとしてもキリスト教教育を続けるため、各種学校に留まることを決意します。しかし、私立学校令という別の法令によって学院の設立が認可されました。ですから今年2019年は学校設立認可120周年。

ここまでは学校全体のことでしたが、1909年は大学(当時は専門部とっていました)にとって大きな出来事がありました。専門学校令という法令によって4年制専門部が認可されたのです。当時、女子には大学が認められていませんでした。専門学校令は、大学教育に相当する学校を専門学校と認めるというものでしたから、女子にとって専門学校(専門部)が実質大学に当たりました。ですから今年2019年は大学教育認可110周年。

そして1919年は神戸女学院関係者にとって大いなる喜びの年となりました。専門部を大学部と改称することが認められたからです。これまでは実質大学の教育をしていながら世間にはその内容が正しく伝



学校設立認可を知らせる記事  
(1900年1月発行『めぐみ』第22号)

わっていないという卒業生の声もあり、改称に踏み切ったのです。デフォレスト先生は大学部改称についてこう言っています。「…廣く社會に學院の真相を認められん事を望んだからである。…大學部の名称を採用する事に對して反對の意見があつた事を回想するのは興味ある事である。…他日政府が女子の大學に關する法令を發布せられた場合には又之を本院に適用され得る様にありたいのは御同様の希望である。」(1919年8月発行『めぐみ』第67号)と。ですから今年2019年は大学教育公表100周年(ただし、政府が1918年に出した私立学校でも大学を認める大学令という法令に準拠したものではなく、あくまでも専門学校令に基づいたものではありません)。

自らが求める教育をしっかりと見極め、その上で、じっくりと内容を練り、焦らず機を見て動く—これが神戸女学院の教育姿勢です。皆さんにもそのような歩みをと願います。10年、20年先を見て今を着実に生きていく—ここでの学びがやがて花を咲かせるその時まで…。

“The basis of all our progress must be PRAYER....and we ask you, one and all, who have been with us and hold sacred the purpose of Kobe College, to join in prayer with us that Christ's spirit may fill and rule our institution.” (op.cit. p.4)

## &lt;キャンパスお気に入りの場所&gt;

## 初心に帰る実験室

10年前に環境・バイオサイエンス学科に入学してから、大学院を経て教学職員として勤務する現在まで、神戸女学院での大半の時間を実験室で過ごしてきた私にとって、お気に入りの場所はと聞かれて真っ先に思いついた場所は、理学館ではなく、メアリー・アンナ・ホールブルック館です。

同館は、米国女性として初めて医学博士号を取得したひとりといわれ、神戸女学院において科学教育の充実のために大きな功績を残されたメアリー・アンナ・ホールブルック先生の名前を冠して、2012年3月に竣工いたしました。地上3階、地下1階建てで、講義室や大小の実験室、実験に使用する水生生物を飼育する水槽室や、教員の研究室があります。

同年の4月に大学院に進学し、健康医学を専攻した私は、運よくこの洗練された1階の実験室で修士論文執筆のための研究生生活を始めることができました。学部生の頃と違い、院生の研究生生活は自分との闘いでした。片道1時間半の道のりを始発に乗って登校し、日が暮れるまで実験したり、培養した細胞を12時間試薬と反応させている間に、5分おきに測定する別の作業を並行しておこなったり。学祭の日に賑やかな中庭の喧騒から逃げるようにして実験室に籠り、英語論文と睨めっこしたこともありました。今では足を運ぶことも少なくなりましたが、時々覗いては当時を思い出し、自分を奮い立たせてくれる大切な場所です。

(人間科学部事務室)



基本的な設備が整う H-105実験室

## 世界への窓口

講堂の2階に、かつて映写室だった小さな部屋があります。中高生の頃、講堂で映画会があったときは、きっとここでフィルムが回されたのだろうなあと思いをはせる、そんな映写室もその役割を終え、今は通訳ブースとなっています。小さな部屋には、会場の様子を確かめながら、話者の音声の直接ヘッドフォンに聞こえてくるしきみをはじめ、同時通訳に欠かせない機器が設置され、活躍する時をいつも待っている感じがします。その小部屋を、視聴覚センターでは時々お借りして、講堂での行事中継の基地局として利用しています。

昨年6月、サムヒューストン州立大学と本学音楽学部の合同オペラ公演を、遠く離れたところにいる家族や友人に届けたいとの要望を受け、この部屋からインターネット中継を実施しました。中継時は、窓越しでしたので、私たちは直接公演の雰囲気味わうことはできませんでしたが、リハーサルの流れをメモにとって、本番では、それを参考にカメラアングルを調整したり、カメラを切り替えたりなど緊張しながらの一瞬一瞬に、一観客とはまた違った感動を味わうことができました。6月1日(金)の公演は265件、2日(土)の公演は132件の視聴があり、海の向こうで私たちのおこなった中継を多くの方が見てくださったことを、とても嬉しく思いました。

機材は意外と量が多く準備は大変でしたが、この小さな場所が、中継という作業で世界へつながる窓口となった瞬間でした。

(視聴覚センター)



搬入した映写室内の中継機材

## 大学報告

### 『Stories—私はまだ、私を知らない。』

新制大学設置認可70周年を記念し、学長室では昨年12月、卒業生の皆様の「学生時代とそれから」を読み物としてまとめた『Stories—私はまだ、私を知らない。』を発行いたしました。スクールカラーの濃青色に白い文字の、交通広告と同じシンプルなデザインの冊子です。本学卒業生の活躍は多方面に亘り多彩。その先輩たちの生き方を、後輩である学生の皆様にご紹介したいと思ったのが記念誌発行のきっかけでした。最終的に3学部20人の皆様が登場くださいましたが、NHKを退職されたばかりの有働由美子さん（総合文化学科1991年卒業生）にその中に加わっていただけたのも幸運でした。

ご登場くださった方々は世代もお仕事も生き方も様々です。しかし、この岡田山キャンパスの、この空気感の中で過ごした学生時代をととても大切にされていること、卒業後も二十人二十色の人生をしなやかに歩んでおられることは共通しています。取材ではお一人おひとりのStoryを伺い、岡田山で受け継がれてきた教育に対して、本学職員として自信と誇りを感じました。また皆様の生き方から教えられることは多く、とても励みになる貴重な体験でした。

この記念誌は部数の都合上、幅広くお送りすることができませんでしたが、現在本学のホームページ上でご覧になれます。ぜひ一度HPを覗いていただければ幸いです。

<https://www.kobe-c.ac.jp/70anniv/html5.html#page=1>  
(学長室課長)



『Stories—私はまだ、私を知らない。』

### 2018年度文学部講演会を開催

文学部 総合文化学科 2年生

11月17日(土)に東京大学名誉教授で翻訳家の柴田元幸先生と内田樹本学名誉教授をお招きし、「幸せ」とは?をテーマに文学部講演会を開催しました。

講演会の前半では柴田先生が翻訳された『ハックルベリー・フィンの冒けん』について、学生から質問をする時間を設けました。その際、柴田先生から、翻訳を学ぶ学生に向けて、古典を沢山読むことが大切であるというご指導をいただきました。

後半冒頭では、柴田先生に、やはりご自身が翻訳されたブライアン・エヴンソン著「ウインドアイ」を朗読していただき、臨場感溢れる物語の世界に会場全体が引き込まれました。また、先生方お二人の対談では、本学のタグラインである「私はまだ、私を知らない」について、本当の自分は何処にもいない、しかし一方で自分をしっかりと認識した上で自己を開いていくことが大切であるというメッセージをいただきました。また、内田先生の、「正しい位置とはいつでも正しい位置に戻れる位置のことであり、それは選択の自由度が高く、広がりがあること」というお言葉は、リベラルアーツの目指すところと重なり、本学で学べることを改めて幸せに思いました。

講演会終了後は、めじらウンジにて、本学学生を対象に懇親会を開催いたしました。

本講演会を開催するにあたり、学生たちに企画運営を任せてくださったこと、ご指導いただきました先生方、職員の皆様に、心より御礼申し上げます。



めじらウンジでの懇親会にて

## 「やりたい」を形に

—副専攻おんがくかコンサート—

文学部 総合文化学科 3年生

クリスマスが近づく頃、図書館1階のiLibにて“副専攻おんがくかコンサート”を開催し、日頃の成果を披露しました。コンサートでは、副専攻プログラムをヴァイオリンや声楽で履修する総合文化学科3年生の3人によるクリスマスキャロルや、昨年ヒットした映画の挿入歌の演奏と、神戸女学院大学が主催する書評コンテストの今年度受賞者によるトークショーをおこないました。

このイベントを企画するにあたっての私たちの思いは、本学のリベラルアーツ教育を表現するという意図から2つありました。まず1つ目は、所属する学部以外の学びを得られる副専攻プログラムを、多くの学生や日頃お世話になっている教職員の皆様に知っていただきたかったからです。そして2つ目は、図書館を本の貸し出しのみの利用ではなく、本から得た学びを文章にする書評コンテストへの参加や、学生の場所として幅広く利用ができることを伝えたかったからです。

本番は図書館イベント史上最多となるお客さんが来られ、ステージを楽しみながら進めていくことができました。中盤のトークショーでは、ゲスト出演していただいた受賞者の方に政治やジェンダーの問題を熱く語ってもらい、来年度の応募者へメッセージもいただきました。学生の「やりたい」を形にくださった図書館課長の石村さんをはじめとする図書館職員の皆様に感謝をしつつ、今後は新入生に向けて副専攻プログラムや図書館の利用について情報を発信していきたいと思います。



副専攻おんがくかコンサートの様子

## Rakugoを世界へ

文学部 英文学科 1年生

落語を世界へ！という目標のもと“ぶりん亭芽りん”（六代目桂文枝師による命名）としての活動が今年で11年目になります。日本全国、時には海外で英語落語をしており、昨年10月にはロンドン・ローマにて英語落語の公演ツアーをおこないました。ロンドンでは英語落語を、ローマでは人生初のイタリア語落語に挑戦しました。イタリア語での落語は予想以上に大変でしたが第二外国語の授業でイタリア人の先生に何度も翻訳をチェックしていただき心強かったです。今年の春はベルギー公演が控えており、現地の方に落語を体験していただくワークショップも担当することになったので頑張ります。その他、昨年には大学生落語日本一を決める大会「てんしき杯」に出場。全国の落研から精鋭が集まり、決勝に進むまでに3つの噺を完璧に仕上げなくてはならない過酷な大会でした。神戸女学院には落研がないため初の神戸女学院生としての出場で、決勝進出者の発表時に大学名が呼ばれた時にはどよめきが起こりました。結果は3位入賞でしたが日本語の落語と対等に勝負する難しさを経験。これを糧に2月開催の大きな大会に臨みます。大学では英語落語のため英語の勉強漬けの日々を送り、加えて講演会等にも出席。9月に開催された落語家の林家竹丸師匠の講演会では講演後に竹丸師匠とお話をさせていただき、プロの目線から数々のアドバイスをいただき本当に感謝しております。今後も毎日を大切に積み重ねていきたいです。



毎回緊張しますが力の限りを尽くしています

## 舞踊専攻卒業生ウクライナ公演

昨年11月に音楽学科舞踊専攻卒業生8名とゲストの男性ダンサー4名により結成されたグループが舞踊専攻専任教授である島崎による3作品を披露するために、世界的バレエダンサーであるウラジミールマラーホフさんの招待により彼の故郷でもあるウクライナでの「ウラジミール マラーホフと世界のバレエスターガラ公演」に参加しました。ベルリン国立歌劇場、キエフ国立劇場、クロアチア国立劇場、パリ オペラ座などのプリンシパルダンサーたちと共に11月22日(木)はオデッサにて、24日(土)にはキエフにて公演をおこない、終演後は観客総立ちでアンコールが止まらず大成功の公演となりました。我々にとっては、まるで宝箱のように美しい歴史ある劇場にて世界的なダンサーたちと同じ舞台上踊ることのできる幸福感を出演者全てが感じられた言葉で表現しきれない素晴らしい経験となりました。キエフでは急遽国立バレエ学校の生徒たちのためにも公演をして欲しいということになり、学校の舞台上で For James という作品を披露しましたところ、学生の皆さんがやはり総立ちで大きな声を出して「こんなに興奮した学生たちを見たことがない」と校長先生も仰るほど喜んでいただきました。この公演には本学舞踊専攻の客員教授である針山愛美先生もご自身の作品を披露されました。舞踊には国境がないということを改めて実感する旅となりました。

(音楽学科教授 島崎 徹)



オデッサ国立劇場にて

## 舞踊専攻第10回卒業公演

去る12月13日(木)から15日(土)に、本学エミリーブラウン館の舞踊専攻スタジオにて、第10回音楽学部音楽学科舞踊専攻卒業公演がおこなわれました。公演1作品目は専任教授の島崎が第7期生に振り付けをした Seasons の再演で幕を開けました。7期生のために創られた時は男性ダンサーも入った作品であったため、今回の10期生が踊るにあたりかなりの手直しをしましたので、新たな作品として蘇ったと思います。その後は休憩を挟んで、10期生のために島崎が振り付けをした Painfully Good を披露しました。この作品はアルゼンチンのアーティスト Juana Molina の音楽を使用し、肉体を極限まで追いやることの向こう側にある解放された世界を表現しました。この作品の制作にあたり学生たちに要求されたことは、彼女たちの中に存在するダンスに対しての自然な順応力を発見することと、時代の流れとともに我々の文化の中に浸透してきた西洋的な意味での音に乗るといった感覚の発見と実践でした。振り付けそのものの密度が高い場面はもちろんですが、その間にある静の世界に入った瞬間に逆に観客を引きつけるための表現の追求は個々の学生にとって難しい課題であったと思われます。非常勤講師の本間先生と服部先生、研修生の指導もあり、この作品を通して7名全員がかなりレベルアップされたと同時に、作者としては3月の定期公演に向けてより一層のスキルアップと表現者として成熟を期待したいところです。

(音楽学科教授 島崎 徹)



Painfully Good

## 第9回絵本翻訳コンクール表彰式

第9回神戸女学院大学絵本翻訳コンクールには42都道府県・360校から1738点の応募が寄せられた。課題絵本は『The King and the Sea』。オーストリアはギュッシング生まれの児童文学作家ハインツ・ヤーニッシュが紡いだ、それぞれ数行しかない21編の断片的文章に、自らも絵本作家でありながら数々の他者作品に挿絵を提供してきたヴォルフ・エアルブルッフが、前景も背景も無いミクストメディア・コラージュを添えている。

この大物コンビが文も絵も装飾を削り抜いて仕上げた本作は、そのミニマリストな作風とは裏腹に奥行きのある哲学的余韻を醸し、サン=テグジュペリの『星の王子様』を彷彿させる。また、そのアニミズム的な世界観は金子みすゞの『私と小鳥と鈴と』にも通じるものだ。

厳正な審査を経て選出された入賞者（最優秀賞1名、優秀賞1名、佳作3作品5名、審査員特別賞3名、計10名の高校1～3年生）ならびに引率者を招いて、11月24日（土）、めじらウジにて表彰式が開催された。特筆すべきは、第8回の優秀賞受賞者が今回最優秀賞を受賞するという快挙を成し遂げたことである。

学長挨拶で幕を開け、審査員による作品解説、本学出身の人気絵本作家・真珠まりこ審査員長による総評、最優秀賞・優秀賞受賞者による作品朗読、佳作・審査員特別賞受賞者による挨拶、そして茶話会へと催しはとり運ばれた。

訳出という営為の苦悩や喜び、そして感謝。受賞者が発した純朴な言葉の響きに揺さぶられ、聴く者の心はみな波間に揺蕩う小舟となった。

（英文学科准教授 中村 昌弘）



受賞者と審査員（表彰式にて）

## 「神戸女学院の100冊」書評コンテスト

「神戸女学院の100冊」([https://www.kobe-c.ac.jp/learning/lap\\_100](https://www.kobe-c.ac.jp/learning/lap_100))は、人文科学、社会科学、芸術学、自然科学にまたがる神戸女学院大学のリベラルアーツ19分野の教員が、それぞれの分野を代表する書籍を選んだアンソロジーです。これから大学でリベラルアーツを学ぶ学生のための道標となる図書を集めたものですが、高校生や卒業生の皆さんの知的な興味も刺激し、新たな扉を開いてくれる珠玉の一冊ばかりだと思っています。

この100冊をより広く知っていただくために、2015年度から書評コンテストを開催しています。高校生部門では、読書感想文ではない書評を初めて書く皆さんからのフレッシュな力作がよせられ、大学生部門では、神戸女学院大学での学びの成果に溢れた作品が応募され、中には英語で書かれた書評もあります。各分野での選考を経て、最優秀作、優秀作、佳作を選出していますが、批評的な読書経験に基づいてしっかりと視点の定まった作品が多く、選考には苦勞します。

「神戸女学院の100冊」は、固定されたものではありません。大学や社会の変化に合わせてアップデートしつつ、様々な場面で活用していこうと考えています。書評コンテストも、次年度以降は少し形を変えて継続していく予定ですので、大学での学びの入り口として、また大学での学びの証として、皆さんから益々多くの素晴らしい書評をお寄せいただけたらと思っています。

（副学長・教務部長 西田 昌司）



書評コンテスト表彰式

## 神戸女学院大学音楽学部定期演奏会2018

11月27日(火)、神戸女学院大学音楽学部定期演奏会2018が兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホールにて開催されました。

音楽学部では4年に1度、定期演奏会で第九を演奏しています。すべての学生が、シラーの詩「歓喜に寄せて」を元にベートーヴェンが作曲した感動的な作品をステージで体験して卒業していきます。今回も音楽学部学生に加え、他学部学生、教職員、賛助男性合唱団の総勢200余名の合唱と共に、平和への熱いメッセージの込められた交響曲第9番が華やかに演奏されました。

プログラム第1部は作曲家・八木澤教司氏を客演指揮者としてお迎えし、八木澤氏のウィンド・オーケストラのための作品、《蒼天の鳥たち》と《烏山頭》～東洋一のダム建設物語～が神戸女学院大学ウィンド・オーケストラによって演奏されました。音楽学部では2019年度より管楽器セクションに新たな楽器専攻が加わることとなり、音楽教育の新しい展開に願いを込めてのステージとなりました。ウィンド・オーケストラの色彩豊かで温かいサウンドは大ホールの大きな空間に心地よく響き、定期演奏会の歴史に新しい1ページを加え、新鮮な幕開けとなりました。「烏山頭」の小編成版は改訂初演でした。

第2部のベートーヴェンの交響曲第9番二短調作品125はベートーヴェン最後の交響曲です。ソリストとして本学音楽学部教員、斉藤言子先生(ソプラノ)、山田愛子先生(アルト)、松本薫平先生(テノール)、萩原寛明先生(バリトン)をお迎えして、総勢200余名の合唱、神戸女学院大学音楽学部オーケストラ、本学専任講師・松浦修先生の指揮で演奏されました。この作品は4つの楽章から成る壮大な作品で、第4楽章に独唱と合唱が加わり、演奏時間も1時間を超えます。合唱指導は山口英樹先生で、毎週の合唱の授業で学生たちはドイツ語の歌詞を暗譜し、「すべての人間は兄弟になる」と高らかに力強く歌い上げました。オーケストラの指導をしてくださった松浦修先生は何回も臨時練習を重ね、本番のステージに向けて演奏者の気持ちを高めてくださいました。推進力のある活気あふれる音楽の運びは、ソリストと合唱団の力強いエネルギーと合わさって、客席いっぱい熱いメッセージが発信されました。練習は時には厳しく、学生たちにとって試練の日々でもありましたが、それだけに舞台での達成感は大きく、終演後の学生たちの歓喜にあふれた表情は印象的でした。

会場には教職員、ご退職された先生方や職員の皆様、学生たちを見守るご家族、楽器を背負って駆けつけた中学生、高校生など1000人近くのお客様にお越しいただき、盛況のうちに定期演奏会を終えることができました。ご支援、ご協力くださいましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

(音楽学科長 佐々 由佳里)



音楽学部定期演奏会「第九」

## 保護者会報告

今年度の保護者会は3回おこなわれました。

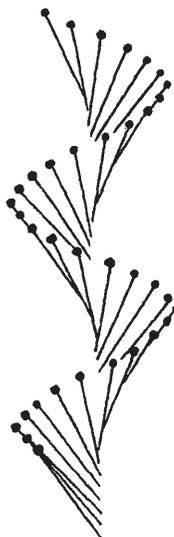
まず全学部1年生保護者対象に、6月2日(土)15時から家庭会大学部会総会に引き続き、本学文学部1号館で開催されました。出席保護者数は約100名。学生部長の挨拶の後、学生生活全般、留学、就職状況・就職活動に関する説明が担当職員及び本学学生によっておこなわれました。またその後、希望される保護者の方に、講堂にて本学&サム・ヒューストン州立大学合同オペラを観ていただきました。

学外会場では、四国地区在住全学年保護者対象の保護者会が7月7日(土)11時30分から松山全日空ホテルで開催される予定でしたが、西日本を中心とした大雨により中止となりました。また、和歌山地区・大阪南地区在住全学年保護者対象の保護者会が、7月21日(土)11時30分からホテルグランヴィア和歌山において開催されました。出席保護者数は21組、29名。学生部長の開会祈祷、学生副部長の挨拶、学生部長の学事現況報告、キャリアセンター職員による最近の就職状況説明がおこなわれました。昼食(懇談)をはさんで、午後から個別懇談が実施されました。

今年度から新たに企画された全学部1・2・3年生保護者対象の保護者会は、11月24日(土)10時から本学講堂で開催されました。出席保護者数は約450名。午前中は学長の挨拶、及び学事現況報告の後、就職に関する説明がおこなわれました。お昼休みを挟んで、午後からは音楽学部卒業生によるミニコンサート、カウンセリングルーム専任カウンセラーの講演、学生による学生生活全般の話、留学の説明がおこなわれました。

いずれの会も和やかな雰囲気の中に無事に終了いたしました。今年度ご協力を賜った関係各位、保護者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

(学生生活支援センター課長)



和歌山会場にて

## 2019年度大学入試結果中間報告（2/20現在）

2月20日現在において、AO および指定校制推薦、KCH 推薦、公募制推薦、クローバー推薦、帰国子女、編入学の各入試を昨年の内に、また、年が明けてからは一般前期A B C D日程および大学入試センター試験を利用する入試（センター利用）前期日程が済み、残すは一般後期日程およびセンター利用後期日程のみとなっている。

2019年度入試は、音楽学部音楽学科で2つの変更を実施した。ひとつは器楽専攻に新しくサクソフォーン、バスクラリネット、ユーフォニアム、チューバの4つの楽器を加えた。短期間の広報であったがこれらの楽器での志願者も得ており効果はあったと考える。もうひとつはこれまで専願制としていた公募制推薦入試を他大学との併願可能にしたことである。これにより、受験者への門戸が広がり、志願者増に寄与したと考えるが、いずれも次年度は更に積極的に広報し、認知をはかる必要がある。

さて、2019年度入試の現時点での概況であるが、主だった入試制度の志願状況は以下のとおりである（全て述べ数）。

入試制度 年度	AO	公募制 推薦	一般入試前期				センター利用
			A日程	B日程	C日程	D日程	前期
2019年度	52	650	1246	585	365	263	502
2018年度	35	588	1185	564	393	235	415

本学の状況および他大学の情報から鑑みると、今年度は受験者が前倒しに動いていると考えられる。要因としては、この数年の定員管理の厳格化による大規模私立大学の合格者数減少傾向が挙げられる。これにより、高校や塾での指導が、年内入試からの積極的な受験にシフトしていると見られる。

この流れを受けて本学も既に終了しているほとんどの入試で志願者を伸ばしてはいるが、昨年度にも増して超安定志向と言われる今年度は、本学の受験者層にも若干変化が見られ、最終的に入学者が確定するまでは予断を許さない状況である。

2年後には入試改革を控え、次年度はもちろん、今後数年間は大学入試が大きく変わることが予想され、本学も様々な形で影響を受けることになる。

まずは本学がどのような入学者を求め、それをどういった形で入学試験に反映させていくのか。引き続き検討をしていかなければならない。

（入学センター課長）

**<受入れ留学生報告>****「縁」に感謝した一年**

文藻外語大学交換留学生

1年前、私は不安な気持ちを抱き、ここに来た。飛行機の中に座っているとき、もう家族と友人と離れ、自分の慣れ親しんだ場所から出たことを意識して、思わず涙があふれてしまった。

最初は1年は非常に長いと思い、自分の根性でどこまでがんばれるか分からなくて、いろいろ心配した。だが今はもうすぐ帰国すると思うと、時間の流れる早さをはっきり感じている。

この1年間色々体験し、勉強も遊びもちゃんと頑張ってきた。一番勉強になったのは建石先生の授業である。最初は授業が難しすぎて自分にはついていけないと思ったけど、先生が楽しい雰囲気を作ってくれたので、自分も論文のことに興味を湧いてきた。しかも先生のおかげで、自分が将来やりたいことを見つけ、節目となる1年となった。

そして、ここでできた友人と一緒に作れた思い出も、自分の大切な宝物である。食事会をしたり、観光したり、難しい課題を悩んだり、お互いの弱い所を支え合ったりした。みんなと一緒に何があっても乗り越える自信がある。一緒に撮った写真を振り返り、これまで過ごした日々がはっきり目の前に浮かぶようになった。みんながそばにいてくれたので、ここまで歩いてこられた。みんなのおかげで、私はここにいられる。みんなの優しさや思い遣り、大切な絆をいただいて心から感謝する。一緒に過ごしたこの1年は、これまで想像したことがないほど不思議で幸せな時間だった。もうすぐさよならだけど、それは決して終わりじゃない。それは新たな始まり、馮慧婷（ヒョウケイテイ）という人の物語の新たなページだ。みんなとの繋がりは絶対消えないので、またどこかで会おう。いつかのその日を期待している。

**日本留学で学んだこと**

徳成女子大学交換留学生

私は韓国の徳成女子大学からきたコンミンジョンと申します。2018年9月から2019年1月まで神戸女学院大学で交換留学をしました。神戸女学院での留学は4ヶ月の短い時間でしたが、日本語を勉強し始めてから一番いろんなことを学ぶことができました。教科書や旅行では学ぶことができない日本での生活を通して日本の文化と日本語に深く触れ合うことができました。

私が日本語を勉強し始めたのは中学生のときでした。日本語を勉強しながら、自然に日本の文化にも興味を持つようになり、日本に住むことが夢になりました。大学に入ってから、交換留学で日本の大学で勉強することになりました。最初は、日本語を勉強した期間も長いき、6回ぐらい日本に旅行をしたこともあるから大丈夫だと思いました。でも、住むことは思ったより難しいことがたくさんありました。日本の蚊にさされて、足全体が真っ赤になり、かゆくて一晩中寝られなかったり、韓国の飛行機会社の規則と違って、飛行機のキャンセルができなかったり、大変なこともありました。でも、優しくしてくれた神戸女学院の先生たちと、学生たちのおかげでつらいことも乗り越えることができました。すごく感謝しています。

日本の生活に慣れてからは日本で勉強して、日本を旅行して、日本に住むことが楽しくなりました。韓国で日本語を習った時より詳しくて、生き生きしている日本語を勉強することができて、日本語を勉強する楽しみを知りました。日本を旅行しながら、知らなかった日本を見ることもできました。神戸女学院で勉強しながら、もっと自分が成長することができたと思います。もう一度心から感謝いたします。またいつか神戸女学院のみなさんに会いたいです。

## 本当に心温かい経験でした。

徳成女子大学交換留学生

私は韓国の徳成女子大学から来たキムヒョジョンと申します。私にとって神戸女学院大学での4ヶ月は一生忘れない記憶になりました。国際交流センターの職員さんを含めて、私が参加した授業の先生たちの温かい配慮で楽しい生活を過ごせました。毎週の課題はしんどかったけれど、どこでも学べないことを教えてもらった大事な時間でした。また、神戸女学院大学の学生さんたちにもたくさんの手助けをもらいました。

ここでの思い出を少し紹介したいと思います。寮では毎週水曜日に夕拝があります。すべてが不慣れで難しかった私は、どうすれば良いか分からなくてとても慌てていました。その時、同じ4階の友人が「空いているからここに座って」と言ってくれました。その後も韓国に関心を見せて、明るい笑顔で声をかけてくれて本当にありがたいと思いました。そして夜、点呼が終わった後、その寮生が私の部屋へ訪ねてきました。「親しくなりたいので連絡先を交換したい」と言ってくれました。寮でこんなに積極的に話しかけてくれる友人は初めてだったので本当に嬉しかったです。これをきっかけに、その友人と一緒に寿司を食べに行ったり、韓国料理を作って一緒に分けて食べたりしました。この前には、友人がカレーを作って私にサプライズしてくれたこともありました。

最初、日本に来た時は本当に寂しくて悲しかったのですが、ここでよい友人ができたので、韓国に帰るのを惜しく感じています。もうすぐ韓国に帰ると思うと悲しいですけど、大事な縁を作ることができたので本当に幸せでした。短い4ヶ月でしたが、留学生の私を助けてくださったたくさんの方々に感謝いたします。ここで学んだことをもとにさらに自分を発展させていきたいと思っています。

## <派遣留学報告>

ミリアム大学

## フィリピン留学での学び

文学部 英文学科 3年生

フィリピン人の英語力の高さに関心を持ったのがこの留学を決めたきっかけです。またミリアム大学はコミュニケーションに力を入れていると現地の方に聞き、コミュニケーションを学ぶことは英語力の向上に繋がると思いミリアム大学を選びました。

留学で一番大変だったのは、文学の授業についていくことでした。テスト問題は読み上げられるため、聞き取って書き写すというところから躓きました。問題を理解して、意見を英語で表現するのに時間がかかり、制限時間内に書ききれず悔しい思いをしました。現地学生との差を埋めるには予習復習の徹底と友人の助けが必要でした。理解できるまで諦めず教えてくれたことには本当に感謝しています。また、この授業はグループプレゼンテーション形式でおこなわれ、スライドでの発表だけでなく、アニメーションやショートフィルムを作成することも課されました。作品の分析ではなく、自分がどう感じたか表現する力が求められ、現地学生の高い表現力、創造力が強く印象に残っています。文学の授業を通して、伝えることの面白さと難しさを知りました。

フィリピン人の英語力が高い理由には、教育や生活様式の違いもありますが、授業に対する積極的な姿勢、もっと学びたいというハングリー精神も理由の一つであり、英語力の差はここにあると、授業を現地の学生と一緒に受けて感じました。フィリピン留学、ミリアム大学を選んでよかったと心から思います。



文学のグループメンバーと

## アサンブション大学

## 本当の意味の留学とは

文学部 総合文化学科 2年生

留学の最大の目的は英語学習ですが、実際に現地生活してみると英語の実力を伸ばすとともにフィリピン文化体験ができたと思います。私が個人的に感じたフィリピンの印象を一言で表すならば「アジアと欧米の間」と表現できるのではないかと思います。性格を取り上げるならば、欧米の誰にでも明るく話しかけるフレンドリーさと、アジアの謙虚さや他人を思いやる心など控えめな面も見られました。街並みを取り上げるならば、マニラの一番中心の地域は欧米のようにビルや道が整備されており綺麗ですが、一本道を外れるとトライシクルが走っていたり、人が道でものを売っていたりと、東南アジア独特のローカルな雰囲気も見受けられました。やはり、所々で貧困差が垣間見える国ではありましたが、現地で私に関わってくださった方々は全員が常に幸福感が高く、小さなことでも感謝して毎日をご過ごしているようにみえました。そんな日本人とは少し違うあたかい国民性に触れながら、自然と英語スキルを習得できたのではないかと思います。

身の回りの環境全てが当たり前ではないことを身をもって実感できた半年間であったと思います。英語スキル向上以上に学び得たものが多かった留学でした。

最後になりましたが、私の挑戦をいつも全力で応援してくれた家族や友人、より充実した留学生活のためご尽力いただきました国際交流センターの皆様にご感謝申し上げます。



クラスメイトと学内イベントにて

## タイキリスト教大学

## 全ての出会いにコープンカー！☆

文学部 英文学科 3年生

「サワディーカー」「コープンカー」

知っているタイ語はこんにちは、とありがとう、の2言だけ。そんな私が、日本人はおろか、英語を話せる人もほほえないタイの田舎町ナコーンパトムに神戸女学院第1号として留学してきました。

なぜか私の部屋にだけ月1回のペースで現れるゴキブリと闘ったり、突然のスコールで洗濯物が全滅したり、授業開始時刻に教室に私しかいなかったり!?毎日がハラハラドキドキの連続でしたが、本当に充実した7ヶ月でした。

タイ留学とは言っても、授業は英語でおこなわれます。私が留学した観光学科はカンボジア・ブータン・フィリピン・台湾・中国の学生がいる多国籍な学科だったので、同じトピックでも違った視点で学べるのが魅力的でした。

1番思い出深いのは現地での生活や地域の方との交流で、その中でも特に心に残っているのはピージャップ一家との出会いです。お惣菜の屋台を出している彼女は、私がタイに来たばかりの頃から会うたびに「サワディーカー！」と満面の笑顔で話しかけてくれ、いつもおかずを1品おまけしてくれました。前日に泣きながらお別れしたのですが、帰国日、荷物をまとめてアパートから出ると「ユカコ！」という声が。涙をいっぱい浮かべた彼女が見送りに来てくれていて、本当に嬉しかったです。

この留学で、第二のふるさとができた気がします。素敵な経験ができて良かったです。ありがとうございました。ラックマークカー（愛してるよ）!

ピージャップ（一番左）の家族と一緒に。  
ここのごはんが一番おいしかった!

### 〈神戸女学院大学の企画による2019年度夏期語学研修参加者募集〉

2019年度の夏期語学研修は、次の5プログラムが実施予定です。詳細は4月作成予定の募集要項をご参照ください。また募集説明会を実施する予定です。日程は、決定次第、国際交流センター掲示板で告知します。春期（2020年2～3月）にも語学研修を予定しています。詳細は国際交流センター（デフォレスト館1階）まで。TEL：0798-51-8579 Email：kokusai@mail.kobe-c.ac.jp

#### 第10回 西オーストラリア大学（豪州）

時期：2019年8月～9月 募集人数：20人 参加費用：約50万円

西オーストラリア州のパスにある自然豊かなキャンパスで、約4週間、総合的に英語を学ぶ。ホームステイ。平日朝夕、食事付き。

#### 第11回 カリフォルニア大学アーバイン校（米国）

時期：2019年8月 募集人数：20人 参加費用：約80万円

他国の留学生と共に約4週間、基礎および応用英語を学ぶ。英語力によっては、ビジネス英語クラスを受講することも可能。ホームステイ。平日、朝夕食事付き。

#### 第8回 ヨーク大学（カナダ）

時期：2019年8月 募集人数：20人 参加費用：約60万円

多文化都市トロントにあるカナダで3番目の規模を誇るヨーク大学にて、約4週間の英語研修を受講する。現地学生との交流や学外活動も含む。大学寮。

#### 第2回 ケンブリッジ大学（英国）

時期：2019年8月～9月 募集人数：15人 参加費用：約60万円

ケンブリッジ大学ヒューズホールにて約4週間の英語研修を受講する。午前中英語集中レッスン、午後はケンブリッジ大学生とのフィールドワークなど。ホームステイ。

#### 第2回 昭和ボストンサマーセッション（米国）

時期：2019年8月～9月 募集人数：10人 参加費用：約65万円

米国マサチューセッツ州にある昭和女子大学ボストンキャンパスにて同大学が実施するサマーセッションに参加する。ESLに加えて、フォーカスグループ（専門分野）に分かれての授業・フィールドトリップなど。大学寮。

## 研究所活動報告

### ◇講演会

・前期：2018年6月29日

「新しい心の専門家『公認心理師』とは？

～連携・協働の時代に期待される心理支援～

あるく相談室 臨床心理士

今井 たよか 氏

### ◇研究所総会 研究発表

・前期：2018年7月26日

「作家由起しげ子の視界—戦後日本の文化と社会」

藏中 さやか 総合文化学科教授

津上 智実 音楽学科教授

笹尾 佳代 総合文化学科准教授

河西 秀哉 総合文化学科准教授

2017年度総合研究「由起しげ子と戦後日本」の成果をもとに、メンバーが個別に発表をおこなった。本研究は、芥川賞受賞作家・由起しげ子（1900～1969）の軌跡を辿り、戦後日本社会の流れの中にその文学的営為を位置づけることを目的とした2016年度総合研究「由起しげ子研究、序説」の視座をさらに文化へと拡げ、由起の多様な文化的な活動を時代の中に定位することを目指したものである。

由起（旧姓名 新飼しげ）は1918年本学音楽部（当時）に入学した。東京で音楽を学ぶために1921年に中退したが、この縁により2012年にご遺族から、600点を超える関係資料が本学に寄贈された。これらは分類、整理の後、「由起しげ子文庫」として公開されている。当日の発表は、本研究が「由起しげ子文庫」を初めて活用したものであることを述べることから開始した。

藏中は、草稿、日記、メモ類等、資料整理の過程で得た知見を中心に、由起の執筆活動とそれを支えた人やもの、出来事、そして時代との関係をとまじくした。幼少期以来、家族愛への飢餓を持ち続けていたことや、昭和30年～40年代を舞台に描かれた作品が当時の世相を反映していること等を紹介した。

津上は、由起の音楽関係記事を丹念に調査した結果である「音楽関係著作等一覧」をもとに、音楽、舞台といった文化への由起の関心を分析するととも

に、少女時代、本学在学時を通じて形成されていった由起の音楽観を論じた。

笹尾は、由起に対する言及を一覧する「関連文献目録」、ラジオ、テレビ、映画といった視聴覚メディアと由起との関係をまとめた「視聴覚メディアとの関わり事例一覧」をもとに、特に、作品の映画化に着目することを通して、由起の文化的位置の解明を試みた。

河西は、由起の著作から、戦後日本の社会的事象を扱ったルポルタージュ等を取り上げ、由起がどのように社会と対峙したのかを読み解くことを通して、由起による戦後日本社会認識の一端を明らかにした。

以上、著述に留まらない由起の営為について、個々のアプローチにより、文化や社会と絡めつつ立体的にとらえたことを報告した。なお、詳細は研究成果報告書『作家由起しげ子の視界—戦後日本の文化と社会』（全223頁）をご参照いただければ幸いである。（文責：藏中）

・後期：2018年11月23日

「共通英語教育研究センターの教育内容と成果」

川越 栄子 共通英語教育研究センター教授

共通英語教育とは主として英文学科以外の4学科の1、2年生が学ぶ英語教育のことであるが、その教育の特徴と成果について説明した。

#### 特色ある教育方法

- (1) 「1年次における週4日の英語必修授業」
- (2) 「オリジナルテキスト」本学の教育内容・歴史・卒業生等について作成されたオリジナルテキストを使用する。
- (3) 「英語手帳」学生に英語学習の進展を全て記録させる。
- (4) 「ESP（専門分野の英語）教育」各学科に必要な英語教育を実施し専門教育への橋渡しをおこなう。
- (5) 「OSAKA ENGLISH VILLAGE」アメリカを再現した施設で疑似体験させモチベーションをあげる。
- (6) 「統一授業」同一カリキュラム・評価を実施し毎学期後に授業の検証・改善をおこなう。

- (7) 「English Honors Program」英語能力の高い学生を対象に留学を前提とした教育をおこなう。
- (8) 「TOEIC のスコアアップ」必修・選択科目でスコアアップをめざす。
- (9) 「授業外の取り組み」各種資格試験講座・英語検定懸賞コンペティション・スピーチコンテスト・ランチタイムイベント等をおこなう。

上記(1)～(5)に示すように全国でもほとんど例のない本学独自の英語教育の手法を取り入れた。(6)～(9)は他大学ではおこなわれていたが、本学ではセンター発足後にスタートしたものである。

#### 共通英語教育の成果

全国大学生の TOEIC スコアの平均は1年から2年までほとんど伸びていない(国際ビジネスコミュニケーション協会による)が、本学学生(英文学科除く)のスコアは入学からの15ヶ月で平均84点上昇(2016年度入学生)した。これだけの平均スコアアップを果たした大学は全国でほとんどない。

大学通信による「生徒を伸ばしてくれる大学」で本学は29位になり、女子大では2位、関西では5位になったが、共通英語教育研究センターも貢献できたと考える。同センターを立ち上げられた準備委員会の先生方、ご協力いただいた方々に心より感謝を申し上げる。

#### ◇専門部会研究発表会

1. 音楽学科 2018年6月13日  
「ヴァイオリン教授法の実際  
～こんにちの音楽教育を通じて～」  
辻井 淳 准教授
2. 総合文化学科 2018年6月25日  
「戦後日本における天皇退位論の展開」  
河西 秀哉 准教授
3. 環境・バイオサイエンス学科 2018年7月9日  
「食品の抗酸化性はどうかやれば合理的に評価できるのか」  
寺嶋 正明 教授

4. 英文学科 2018年7月10日  
“The Relative Pronoun Problem”  
Susan E. JONES 専任講師
5. 総合文化学科 2018年11月26日  
「クムラン共同体の食卓とイエスの食卓」  
大澤 香 専任講師
6. 心理・行動科学科 2018年11月30日  
「深層学習 (Deep Learning) とシンギュラリティ」  
三浦 欽也 教授
7. 英文学科 2018年12月13日  
“How English-as-L2 Learners in Japan Perceive Prosodic Information”  
立石 浩一 教授
8. 音楽学科 2018年12月18日  
「イタリアの歌曲とオペラ～ベルカントの探求～」  
山田 愛子 専任講師  
蜷川 千佳 非常勤講師

#### ◇専門研究会

- ・2019年1月23日  
“Amanda Stewart: sound & improv”  
by Andrew Carruthers  
Shanghai University of International Business and Economics

#### ◇助成・補助

- |             |    |
|-------------|----|
| 出版助成        | 1件 |
| 体育・芸術活動助成   | 1件 |
| 研究助成        | 5件 |
| 総合研究助成      | 4件 |
| 専門研究会補助     | 1件 |
| 専門部会研究発表会補助 | 8件 |
| 国際学会出張補助    | 6件 |

#### ◇発行物

- 『論集』第65巻第1号(通巻第180号)2018年6月発行  
『論集』第65巻第2号(通巻第181号)2018年12月発行

(研究所)

## 女性学インスティテュート活動報告

### ◇特別講演会

・2018年5月11日

「21世紀における女子大学の存在意義

～セブンシスターズにおけるトランスジェンダーの学生

をめぐるアドミッションポリシーを通して考える～」

津田塾大学 高橋 裕子 学長

### ◇連続セミナー

テーマ「異界へのまなざし」(全4回)

〈第1回〉2018年5月18日

「日常のそばにある『異界』：幻想と現代詩」

古村 敏明 英文学科准教授

〈第2回〉2018年5月25日

「夢見手との出会い：精神分析の経験」

吾妻 壮 心理・行動科学科教授

〈第3回〉2018年6月1日

「異界からの帰還：神話・ファンタジーから考える」

飯 謙 院長

〈第4回〉2018年6月8日

「私の中の『異界』に出会う：介護民俗学の世界から」

奥野 佐矢子 総合文化学科准教授

### ◇研究会

〈第3回〉2018年9月27日

・“The Poetics and Politics of LGBTQ Visibility Campaigns across Europe: A Perspective of Art History and Curating, Political Philosophy and—First and Foremost—Gender Studies”

by Pawel Leszkowicz

Adam Mickiewicz University

〈第4回〉2019年3月1日

・「文学とジェンダー『書く女』」

三杉 圭子 総合文化学科教授

・「『手芸』をめぐるジェンダーの問題系」

奈良女子大学研究院生活環境科学系

山崎 明子 准教授

### ◇学生懸賞論文(第20回女性学インスティテュート賞)

1編応募。

最優秀賞・優秀賞該当なし

### ◇授業

Cu130ab 「女性学(Ⅰ)」

Cu131ab 「女性学(Ⅱ)」

Cu132(1)(2)「女性学(理論編)」

Cu134(1)(2)「女性学(実践編)」

Cu235(1) 「ジェンダー・スタディーズ(Ⅰ)」

Cu335(2) 「ジェンダー・スタディーズ(Ⅱ)」

ID100(1) 「プロジェクト：神戸女学院を創る」

### ◇発行物

『女性学評論』第33号(2019年3月発行)

(女性学インスティテュート)

## &lt;私の研究&gt;

## My Research

Kurtis McDONALD



Besides being actively involved in program management, curriculum development, and classroom teaching for the English Education Research Center since its founding in 2013, I have also pursued a wide range of

scholarly research interests that are aimed not only at contributing to the fields of applied linguistics and second language education, but also to informing my own continuing development as an English language instructor and course coordinator. While I maintain an interest in the areas of task-based language teaching (TBLT), Rasch measurement, second language vocabulary testing, Computer Assisted Language Learning (CALL), instructional technology, and information literacy instruction, I am currently most actively involved in applied linguistics research on second language speaking development and assessment. My interests here run the full gamut from determining what English speaking sub-skills can and should be taught, to evaluating the effectiveness of different instructional approaches and techniques used to do so; from identifying the best conditions for learners to demonstrate their speaking development, to considering how their output can be evaluated in ways that are reliable, valid, and practical in their implementation and interpretation. Although such research has proven to present endless challenges, the process of carrying it out has not only helped me to become more attuned to the complexities of the English language learning than I ever was before, I believe it has also made me a much better instructor along the way.

(共通英語教育研究センター准教授)

## 科研費によるマイクロスケール実験の研究

中川 徹夫



現在、私は実験規模を縮小させたマイクロスケール実験(MSE)教材の開発と改良の研究に取り組んでいる。MSEには、試薬の少量化、廃棄物の削減、時間の短縮、個別に実施可能などの長所がある。

2004年度から科研費に採択され、現在に至るまで主として科研費により研究を推進させている。以下に、2008年度以降の研究課題を記す。

- ・理科に対する学習意欲を向上させるマイクロスケール実験教材の開発と改良(2008年-11年度、基盤C)
- ・持続可能な開発のための教育を推進させるマイクロスケール実験教材の開発と改良(2012年-16年度、基盤C)
- ・生徒主体型学習に有用なマイクロスケール実験教材の開発と改良(2017年-22年度、基盤C)

最近では、ペットボトルのキャップを使用したMSE実験教材の開発に取り組んでいる。

研究成果を日本化学会や日本理科教育学会をはじめとする国内の学会や、環太平洋国際化学会議(ホノルル 2005年、2010年、2015年)、化学教育国際会議(ソウル 2006年、タイペイ 2010年、ローマ 2012年、トロント 2014年、シドニー 2018年)、アジア化学教育者ネットワーク(東京 2015年、ソウル 2017年)等の国際会議で発表した。

以上の発表内容の一部を、学術論文として公刊した。また、2017年、18年には、科研費の成果還元事業である「ひらめき☆ときめきサイエンス」を本学で開催し、小学校5-6年生にMSEを指導した。

最近の研究成果については、報告書(「持続可能な開発のための教育を推進させるマイクロスケール実験教材の開発と改良」、全253頁、2018年3月)を参照されたい。

(環境・バイオサイエンス学科教授)

## &lt;ゼミ紹介&gt;

医療・福祉・倫理：  
正解のない問題を皆で考える機会として

横田 恵子

私の所属する総合文化学科は学際的な組織であり、狭い意味での専門コミュニティは存在しません。学生のニーズや問題意識も多岐にわたります。この状況に対応しつつ自らの演習の専門性・独自性を確保するには、「学生に対し、自分がカバーしている専門研究領域のどのあたりを重点的に示すか」という点に工夫をすることが肝要です。私の場合は、「日常実践と社会学理論の架橋」というあたりに自分の演習を位置づけています。学生募集の際にはより具体的に、「医療と福祉にかかわる具体的な社会問題を倫理的側面から考える」ということをタテ軸に置き、「ジェンダーやエスニシティの問題」をヨコ軸に置いて考えるゼミだと紹介をしています。

集まってくる学生たちは、自らのライフスタイルイメージとして、「(将来、たぶん)産む性」であることを強く意識している者が多いこともあり、演習では彼女たちのそのイメージを手掛かりとしつつ、さらに一步進めて「ゲノム解読、出生前診断、尊厳死、不妊治療…」などのテーマを議論の素材として先行研究を渉猟し、仲間と議論しつつ考えていきます。正解のない問題ばかりです。3年次の後半に他大学の社会学ゼミと合同発表・討論会をおこない、その経験を土台として4年次には各々が卒業論文作成へと向かっていきます。卒業論文はゼミの表看板を超えて芸術学から歴史学に及ぶような幅広い領域の論文が続出するのもまた面白い現象です。

(総合文化学科教授)



## My Way of Teaching;

Xavier LUCK

I teach mainly one on one lessons and small groups of students in a chamber music environment, this enables me to customize my lessons based on the capabilities of the individual student. With that in mind, my teaching method varies somewhat from student to student.

My main goal however is to get the student to a level whereby they have the confidence and skills to make up their own mind on how to interpret a musical score.

They can achieve this by both having a greater understanding of all the elements of music and by being able to contextualize the composers' intentions and expressive desires that are notated in the score.

In order to do this, students have to reach a certain level of technical and musical mastery.

I do not separate musical and technical areas as without technique there is no music and without music there is no technique.

Working simultaneously on fusing both technique and music means using elements such as scales, studies, breathing and body position etc. and incorporating these directly into musical examples so as not to isolate them without a musical context.

Working this way results in an increased harmonic, melodic and expressive understanding. For example, when a student plays a scale they need to be conscious of not just the notes, but also the function of the notes in the harmonic and melodic context of the scale.

The student then becomes much more aware of elements such as pitch and melodic direction etc.

When a student has achieved playing a scale musically they can implement this principal into interpreting a melodic line with integrity, not just leaving it to chance.

The student will then start to be able to communicate with honesty the composers' intentions, which is ultimately the main goal for all musicians!

(音楽学科准教授)



## &lt;課外活動紹介&gt;

[クラブ]

**津軽三味線部**

津軽三味線部員のほとんどは、大学生になり、この部に入部してから初めて津軽三味線に触った初心者ですが、一生懸命楽しく津軽三味線の練習をしています。練習日は、週に2日ほどで、前期、後期ごとに部員の都合を考慮して決めています。また、津軽三味線は部で貸し出していますので、気軽に練習を始めることができます。津軽三味線の特徴は、撥を叩きつけるようにして音を出す、激しい演奏方法です。普通の三味線に比べて、ダイナミックな迫力のある音が出ます。そのため、撥を叩く部分が丈夫な犬の皮になっています。私たちは、この津軽三味線独特の演奏方法を練習しながら、少しずつ様々な曲をマスターしていきます。例えば、入部すると、馴染みのある「さくらさくら」という曲から練習していきます。この曲は、桜が咲き、華やかな満開となり、そしてひらひらと散っていく様を描いており、私たちも、そのイメージを大切にしながら演奏しています。この曲にも、弦を下から弾く「すくい撥」や、撥を胴から離さない「押し撥」といったテクニックが含まれています。また、卒業生の、師範の資格を持っておられる先輩に、定期的にお稽古をお願いしています。自分たちでは気がつかないような視点からの意見をもらいながら、一步一步勉強しています。津軽三味線部は、毎年岡田山祭での舞台演奏もおこなっていますので、是非見に来ていただけると嬉しいです。



津軽三味線とその撥

[クラブ]

**バドミントン部****バドミントン部のいま**

私たちバドミントン部は、経験者から初心者まで個々のレベルを上げながら、みんなで楽しく活動しています。新チームになり、顧問の先生との話し合いを重ね練習メニューを1から作り直したことで、部員1人1人が自分自身のプレーを見つめなおし、「試合に勝つ」ことにこだわって練習するようになりました。そして昨年の秋季大会では、個人戦でシングルス、ダブルス共に2回戦進出を果たす部員が出ました。団体戦では勝つことはできませんでしたが、チーム一丸となり良い戦いができました。現在私たちは兵庫県学生リーグの4部に所属していますが、今年こそ3部リーグに昇格できるように頑張っていきたいと思います。これからも応援よろしくお願いたします。



秋季大会団体戦のダブルス試合風景

## 学生の活動紹介

(コンクール受賞、学会発表など)

2018年度日本語教育学会秋季大会口頭発表

(2018年11月25日, 沼津)

「たほうがいい／ないほうがいい」の初級教科書における扱いと日本語母語話者の使用実態

大学院 文学研究科 2年生 (比較文化学専攻)

第3回メーロス国際音楽コンクール (イタリア)

20歳～27歳部門 カテゴリーE 第1位

(2018年3月25日)

音楽学部 音楽学科 4年生 (ピアノ専攻)

第21回姫路パルナソス音楽コンクール ピアノ部門

入賞 (2018年5月13日)

大学院 音楽研究科 2年生 (ピアノ専攻)

第20回 日本演奏家コンクール

声楽部門 大学生の部 第3位 (2018年9月27日)

音楽学部 音楽学科 2年生 (声楽専攻)

第12回バーテン音楽コンクール

バロックコース (全国大会) 大学・一般A

第1位 (2018年10月10日)

音楽学部 音楽学科 1年生 (ピアノ専攻)

第12回バーテン音楽コンクール

自由曲コース 声楽部門 (全国大会)

大学・院生A 第4位 (2018年12月25日)

音楽学部 音楽学科 3年生 (声楽専攻)

日本心理学会第82回大会 ポスター発表

「わからない」の自覚の発達を促進できるか?

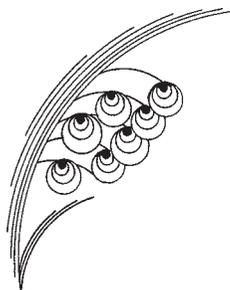
(2018年9月26日)

大学院 人間科学研究科 2年生

第44回日本調理科学会近畿支部大会発表

異なる調理法による鶏肉の嗜好性および物理化学特性の比較—高齢者のために— (2018年12月8日)

大学院 人間科学研究科 1年生



## 中高部報告

### 高円宮杯に出場して

中学部 3年生

11月28日(水)から12月1日(土)にかけて東京にて開催された高円宮杯第70回全日本中学校英語弁論大会の中央予選大会および記念レセプションに兵庫県代表として参加しました。

この大会は各都道府県から選ばれた151人の中学生が出場し、どのスピーチも内容、デリバリー共にレベルが高く、大変刺激を受けました。出場者は大会の期間中親や引率の先生方とは離れて、JN(大会を主催しているJNSA基金の大学生)の方々にサポートをうけながら鳳明館という由緒ある旅館で宿泊します。火曜日から金曜日には中学生会議というイベントが毎晩あり、JNの方々や出場者と楽しいレクリエーションをして仲を深め、土曜日の朝に解散するまでには日本の北から南までに沢山の友だちができました。金曜日に決勝大会が有楽町で開催された後は、帝国ホテルの孔雀の間にて記念レセプションがおこなわれました。今年は第70回の記念として高円宮久子妃殿下に加えて皇太子同妃両殿下もご臨席され、至近距離でお声をかけていただいたりもし、夢のような時間でした。

元は人前でスピーチをすることなんて考えることもできなかった私がこのような貴重な経験ができたのは、私の原稿を丁寧に添削し初心者私のスピーチの発音やジェスチャーなど色々な面を細かく辛抱強く指導して下さった先生方、これまで英語を教えてくださいました英語科の先生方のおかげであり、感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

### 学びへの気づき

高等学部 2年生

私は、4月の国内予選、7月のバルセロナ国際予選大会を経て、11月にイェール大学で開催されたthe World Scholar's Cup 決勝大会に参加しました。各大会では、予め与えられた科学や芸術などの6科目の課題について各自がリサーチをし、ディベート・ライティング・ペーパーテスト・クイズの4科目の総得点を競います。この大会に参加して何より良かったのは、大会のスローガンの一つである“Celebration of Learning”を実感できたことです。大会対策のための教科書や過去問題集はなく、事前のリサーチに終わりはありません。国内大会に向けて準備をし始めた頃は、どこまで調べて良いかわからず、この自由な形式にもどかしさを感じていました。国内予選の後、次の大会まで時間があつたため、改めてリサーチをしてみました。心に余裕ができた状態で取り組むと、今度はリサーチする内容にとっても興味が湧いてきたのです。以前は「早く終わらせたい」と思っていたのに、「もっと知りたい」と感じるようになっていました。知りたいから調べ、新たに出てきた知らないことをより深く調べたい、というように、学びに喜びを感じるようになりました。大会後も、全ての学習において、義務ではなく学ぶことを楽しいと思えるようになりました。このような大きな気づきを与えてくれた大会に参加できたことを心から嬉しく思います。最後に、ご指導を賜った先生方、応援してくれた友だち、見守り支えてくれた家族、一緒に戦ってきた大好きなチームメイトたち、他にもこの大会に関わって下さった全ての方に感謝いたします。

## 国際言語学オリンピック報告

高等学部 3年生

私は7月25日(水)から8月1日(水)にチェコのプラハで開催された国際言語学オリンピックに参加しました。言語学オリンピックとは現在12個ある科学オリンピックの1つで、見知らぬ文字や文法の規則を解読するパズルのような問題が出題されます。前提知識がなくても問題が解けるようになっており、主に論理的思考力や地道な作業が要求されます。大会は個人戦と4人1チームでおこなう団体戦があり、試験の後は市内観光や言語学の講義などがありました。

個人戦は大問5問を6時間で解くのですが、ミスの連続によりあっけなく終わってしまいました。問題の傾向が変わったこともあって試験中冷静さや注意力を失い、自分が今まで対策してきたことや、思考力を十分に発揮できませんでした。この個人戦での悔しさをもって挑んだ団体戦では、他のメンバーとより一層協力し合い、問題の答えが分かった時の嬉しさを皆で共有することができたので、個人戦とは違ってとても楽しかったです。

今回、私の高校生活での最後の課外活動が報われない結果に終わってしまいましたが、大会まで十分な準備をおこなってきたので決して後悔はしていません。むしろ、次にこのような機会が訪れた時にまた努力をしてリベンジを果たしたいと思います。

大会に出場するにあたり私を支えてくださった全ての方々に感謝申し上げます。有難うございました。

## 大阪国税局長賞を受賞して

中学部 1年生

今回私は、「中学生 税についての作文コンクール」において大阪国税局長賞を受賞させていただきました。

私たち中学3年生は、夏休みの宿題として、税についての作文を書きました。作文を書くにあたり、1学期の終業式前に、西宮税務署の方から税についてのお話を伺ったり、ビデオを見せていただいたり、昨年度賞を受賞された先輩の作品を朗読していただく講座を学年全員で受けました。お話の中で、「受賞作品は、起承転結がしっかりしていて、自分の経験を書いていることが良い点である。」とお話されていたので、私も参考にしようと思いました。

作文をいざ書こうとなり、学校の公民の授業で学んだことも入れたいけれど、税についての説明だけでは不十分であり、自分の考えもきちんと書かなければと悩んでいる時、自分がこれまであまりにも税と向き合ったことがなく、深く考えたことがないということに気がきました。そこで、まずは税について深く考えてから文を書こうと思いました。そして、「私は一人で生きていない」というタイトルで、講座で学んだことを取り入れつつ「税が存在する意味」ということをテーマとして、作文を完成させることができました。

良いものを書けたという自信はなかったのですが、税について考えることができる良いきっかけとなったので、書く機会をいただけて良かったと思います。提出しました。

2学期になって先生から、提出した作文が大阪国税局長賞を受賞したこと、更に、大阪国税局長賞が31校2645作品中第1位の賞であることを教えていただいた時は本当に驚きました。

表彰式は西宮神社社会館にておこなわれました。私は、受賞者代表として朗読もさせていただきました。このような素晴らしい賞を受賞させていただいたのは、ひとえに、私に税のことを教えてくださった、先生、税務署の方、両親のお蔭だと思っています。

この場をお借りして感謝を伝えさせていただきたいと思います。有難うございました。

## 高校生東南アジア小論文コンテストに参加して

高等学部 1年生

私は神田外国語大学の主催する小論文コンテストに応募し、最優秀賞を受賞しました。

夏に家族でタイに訪れた時に感じた強烈な印象が、このコンテストに応募したきっかけです。楽園、という言葉がしっくりくる国でした。タイの人々の間で時間が穏やかに流れていく様をととても心地よく感じました。このことは、言わずもがなタイの人々が生活の中心に「仏教」をすえて生きていることに由来します。私はこの旅行で感じたタイの魅力を何かの形で表現してみたい、残しておきたいと思いました。

今年の小論文のテーマはタイにおけるクリスマスの普及についてで、このテーマを見た時に「これだ!」と思いました。神戸女学院で日々キリスト教に触れている私が、仏教のユートピアでの経験を形に残すのにぴったりのテーマだと思いました。

小論文ではタイでクリスマスが普及した理由を3つの論点について考察しました。1つ目は「タイ人の外国に対する好奇心」、2つ目は「観光業におけるクリスマスの重要性」、3つ目は「仏教とキリスト教の教義の比較」です。神戸女学院で学習したこと、タイに訪れて見聞したこと、それから事後学習として様々な資料を調べて探求したことをバランスよく反映できたことが評価されました。表彰式ではほかの受賞者の優れた作品に触れることもでき、大変実り多い学びの機会となりました。

## お弁当コンテストに参加して

中学部 2年生

お弁当コンテストとは、お米を通じて健康的な食生活のあり方や、農業・農村の役割、食料問題を考え、お米を中心とした食生活の良さを私たちが理解するために兵庫県が主催しているコンテストです。夏休みの宿題で応募しました。ごはんの活かし方、手軽さ、創意工夫、栄養面、県産食材使用の5点が採点基準項目で、一次選考ではお弁当の写真や作り方を提出し、審査されます。私は大好きな肉巻きおにぎりや朝倉山椒のみそを使ったものを入れたいと思い、メニューを考え始めました。肉が茶色なので栗の形にしてみようと思ったことから、秋をテーマにしたお弁当にしよう決め、かぼちゃ型のかぼちゃサラダ、ウィンナーでどんぐり、トマトを柿に見えるようになど、秋の食べ物をイメージしたものを考えました。一次選考で選ばれた10人が二次選考にて実物を持参し、質疑応答がおこなわれます。審査員の方はお弁当を見てまわられ、お弁当の名前に合ったものが入っているか、工夫したことや一番難しかったことは何か、などの質問をされました。

お弁当コンテストに参加してみて、他の参加者のおいしそうなお弁当も勉強になりましたし、見た目や工夫や栄養バランスのことなど色々と学ぶことができました。今後、学べたことを活かせると思います。

## 釜ヶ崎で学んだこと

高等学部 2年生

私が炊き出しに参加した釜ヶ崎という地域は、あいりん地区とも呼ばれ、高度経済成長期に大阪万博がきっかけで、全国から仕事を求めてやって来ましたが、その後仕事を失った人々や日雇い労働の仕事を探して集まった人々が現在も多く生活しています。

私たちはいこい食堂でホームレスの支援をされている先生の指導のもとでおにぎりとスープを作りました。普段なら捨ててしまう野菜の皮や大根の葉も貴重な食材で、おにぎりを握る時のお米ひと粒をも大切に使いました。私たちが毎日当たり前のように食事をとることができる有り難さに気づき、今まで何も考えずに過ごしてきたのが恥ずかしくなりました。

公園で炊き出しをした後の先生のお話によると、最近釜ヶ崎に外国人労働者が対象の日本語学校ができたそうです。昨年可決された入管法についても触れ、外国の方は家を売ってまで日本に働きに来るが、労働条件が悪く、安い賃金や不当な扱いに耐えきれず、逃げ出す人や犯罪に走らないと生きていけない人がいるとのことでした。先生の話は私にとって大きな衝撃でした。そして、まだ関係ない話だと関心すら持たなかった自分が情けなくなりました。

釜ヶ崎訪問で教わったことを胸に、社会で起こる様々なことに対してアンテナを張り、更に学んだことを他人に伝えることで、自分や相手の心に貼られた悪いレッテルを剥がせる人でありたいと思います。

## 冬山スキー

今年度の冬山スキーも、志賀高原の一之瀬スキー場でおこなわれました。例年よりも積雪量が少なく、開催が危ぶまれましたが、直前の降雪でぎりぎりスキー場のオープンが間に合い、生徒45名と教員9名はバスで長野県に向かいました。

2日目、講習初日は宿舎前のゲレンデのリフトが動かなかったため、経験者は隣のスキー場まで板を履いて移動しました。初心者は宿舎前の緩斜面でカニ歩き、ボーゲンを練習しました。3日目も隣のスキー場まで移動しましたが、上級コースがオープンしておらず、初心者班以外は更に隣のスキー場まで足をのばし、中級コースを楽しみました。初心者もリフトに乗れるようになり、林間コースを何本も滑ることができました。夜はクリスマス礼拝を守り、その後S2メンバーが企画してくれたクリスマス祝会で、3学年縦割りのゲーム大会・プレゼント交換をして楽しい一時を過ごしました。

最終日はようやく宿舎前のリフトが動き、グループごとに最後の滑走を楽しみ、昼食後帰路につきました。大きな怪我や病気なく、全行程を終えることができ感謝します。

(冬山スキーディレクター)

## 卒業生シリーズ礼拝報告

2月18日(月)から22日(金)の5日間、中高部では「卒業生シリーズ礼拝」を守りました。

18日の礼拝では田淵あゆ氏から、修養会・広島訪問で徹底的に考え抜くという経験をしたという話や、迷いを経て数学の道を選んだ経緯を語っていただきました。中高部は存分に悩み、楽しみ、学ぶことができる場であったという言葉が印象的でした。

19日の礼拝では山田珠久氏から、レットルを剥がした後に残る自分を語る上で大切なものが中高部での経験であること、特に、学年パフォーマンス委員長として熱心に取り組んだ体育祭の経験であると語っていただきました。仲間と共に全力で取り組んだ経験、自分が大切に思っている事柄であっても他の人も同じではないのだと考えて、どうすれば皆にとってよりよい学バになるだろうかと悩みながら取り組んだ経験がかけがえのないものであると話していただきました。

20日の礼拝では山口瑞貴氏から、ご自身の留学の経験を通して、学校生活には楽しいことばかりではなくて苦しいことや悩みも伴うが、それらをひとりで抱え込むのではなくて、周囲の人に相談することで自分の世界が開けるのだと語っていただきました。

21日の礼拝では杉本雛乃氏から、中高部時代に仲間と助け合って行事や舞台を作り上げた経験が、生き方の軸になっているのだと話していただきました。中高部時代に尊敬できる仲間と囲まれて、自分にできない部分を認め、他人を思いやり、助け合って頑張ることの素晴らしさを学べたからこそ、ミスインターナショナル日本代表としての活動においても、自分なりの取り組み方ができているのだと思うと語っていただきました。

22日の礼拝では小林里瑛氏から、神の賜物をテーマに話していただきました。高大連携プログラムを受講した経験から、自分と向き合い、他者と向き合う機会を持つことの大切さを語っていただき、賜物の良い管理者として生きることの大切さを教えていただきました。

5日間、それぞれの講師を通して語られる中高部での経験や卒業後に気づかされた中高部での学びの

意味は、在校生にとっては大きな励ましであり、よき道標になったと確信しています。また、教職員にとっても、神戸女学院が展開してきた教育の意義について改めて確かめる機会になりました。

中高部では、卒業生を招いて神戸女学院での学びの意義を確かめる機会を大切にしてきました。今年度は宗教強調週間の放課後プログラムに社会人2名と、大学生4名を招いての語らいの時を設けました。2日間のプログラムには有志生徒が大勢集まり、恵まれた語らいの時となりました。キャンパス見学会にも卒業生によるスピーチを続けており、神戸女学院での学びの豊かさを広くお伝えすると共に、確かめ合う機会にもなっています。

卒業生は、それぞれの場において神戸女学院での経験が自分の人格となっていることに気づかされているようです。協力を呼びかける声に応えようとする自分、尊敬や寛容のまなざしで周囲を見渡そうとしている自分、感謝の言葉を心がけている自分…。そういう自分の姿に気づかされる度に神戸女学院で目にしてきた友人たちの姿が思い起こされるのだと言います。

学院の『百年史(総説)』を読んでいますと、「女学院精神」について、キリスト教を土台とした「生きていく姿勢」という表現を用いて語られています。

卒業生が語る「生きていく姿勢」を身に着けるまでのプロセスは、在校生もまた経験しているもの、経験してゆかなければならないものです。当事者には見えにくい、「今」という瞬間の意味をその時を経た卒業生が肯定的に語ってくれる、このような機会をこれからも大切にしながら、神戸女学院の「今」を生きる在校生と共に、ここでしか学べない「生きていく姿勢」を確かめてゆきたいと願っています。

また、150周年の節目が近づいてきた今、学院の歴史を学び直しながら、それぞれの経験や夢を語り合う機会を設けてゆきたいと願っています。

(中高部チャプレン)

## &lt;先輩からのメッセージ&gt;

## 赤ちゃんから学ぶこと

藤井 景子  
(中高部卒業)

「おかあさん」と甘えてくる3歳の長男。ヨチヨチと歩く1歳の男女の双子。私には3人の子どもがいて、現在2回目の育休中です。長男の育休時にしていた「赤ちゃん先生」を今回の育休でも再開しました。

「赤ちゃん先生」はママの働き方応援隊という組織に所属する母親と赤ちゃんが色んな学校に出向き、生徒さんに赤ちゃんとおふれあいや育児体験してもらったり、母親が妊娠出産や自身のキャリアデザインの話をしたりして授業をおこないます。また、高齢者施設にも出向き、ふれあい時は不思議と誰もが笑顔になり、赤ちゃんの偉大な癒しの力を感じます。

神戸女学院時代の友人たちは子育てをしながらでも、精力的に自分のやりたいことをやり続けています。私もそれに刺激され、自分の思いを人に伝えたいと、この活動することを決意しました。この授業を神戸女学院でも是非おこなって欲しいと思い、現在学校に相談中です。

授業では「子どもは欲しいと思えば授かるものではなく、授かることは奇跡。」昔は出産の痛みが怖く、実際にお産は想像を絶する痛み。育児は本当に大変です。特に双子の0歳代は寝る暇も無いぐらい。でも、「赤ちゃんは天使。愛おしく、産んで良かった!」といった話をさせてもらっています。これらはいずれ子どもを望むかもしれない皆さんにも伝えたいことです。

赤ちゃんは一人では大きくなれません。皆さんは、周りの人に大事に育ててもらった尊い命。日々を大切に生きてください。



赤ちゃん先生の緑Tシャツを着て開催先へ

## 神戸女学院らしさに誇りを持って

杉本 雛乃  
(中高部卒業)

大好きな学び舎を卒業してはや4年。大学生活も、中高部とはまた違った壮大で素敵なものでした。

高等学部卒業後東京大学に進学し、サークルにバイトに恋愛に、いわゆる普通の大学生活を送った1年生。様々なことに秀でている仲間と囲まれ、何かみんなとは違う私だけのことがしたいと思ったのは、いかにも神戸女学院生らしいのでしょうか。2年生のクリスマスの日にミス・インターナショナルへの挑戦を決め、3年生の10月に私は日本代表に選ばれました。

1年間の活動期間で一番心に残ったのは、世界中の代表たちとの3週間の共同生活。言葉や宗教が違って、みんな同じ様に悩んで笑って、喜びを共有できる大切な仲間たちが世界中にできました。

“やらない後悔より、やった後悔の方がいい。”毎朝の礼拝で何度も聞いた言葉です。やらない後悔が出てしまうのは、きっと人の目が気になってしまうから。それでも、心の底から自分を信じ、一歩踏み出す勇気を持つことができれば、誰かが必ずその努力を見てくれる。周りの期待に応えられないもどかしさにどんなに悩んでも、素敵になったね!と褒めていただくたびに、何度も聞いたあの言葉の意味を、身をもって実感しました。

まだ何かを成し遂げたとはいえない。それでも、これからの人生にワクワクでいっぱいこの感情は、きっと神戸女学院生活で培った自治の精神、挑戦の精神の賜物なのかもしれません。



準ミスと。先日次期代表へ引き継ぎました。

## 第53回中高部長賞 第34回文化・スポーツ賞

今年度の第53回中高部長賞表彰式は12月20日(木)の2学期終業日におこなわれ、Jは美術部、ギター部、バスケットボール部、新体操部の4クラブ、Sは演劇研究部、プラスバンド部の2クラブ、計6クラブが受賞されました。受賞クラブには表彰状と盾、副賞の5千円が贈呈されました。尚、現在すべてのSクラブS3学年の引退が1学期であることを踏まえ、来年度からSクラブのみ1学期終業日におこなわれることになりました。

第34回文化・スポーツ賞表彰式は1月31日(木)におこなわれ、受賞者には中高部長林先生から表彰状とメダルが贈呈されました。文化・スポーツ賞は、学校代表として各大会やコンクールへ参加し、顕著な成績をおさめた個人、団体に授与されるものです。賞の基準は西宮・阪神地区で第1位、兵庫県・近畿・全国、世界で第3位以内とするものであり、選考委員で審議し授賞者をそれぞれ決定しました。

中高部長賞、文化・スポーツ賞は、生徒のクラブ活動や、学校生活での活性化を願い、生徒の努力を称えることが目的であります。来年度もたくさんの受賞者が選出されることを願っています。

施設課の方々には表彰式にふさわしい会場を設営していただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

### 第53回中高部長賞

J美術部、Jギター部、Jバスケットボール部、  
J新体操部、S演劇研究部、Sプラスバンド部

### 第34回文化賞 (23名)

- ☆第42回全国高等学校総合文化祭兵庫県予選小倉百人一首かるた部門 第3位
  - ※第42回全国高等学校総合文化祭2018信州総文祭出場
- ☆第34回成田山全国競書大会 成田山賞 (全国3位相当)
- ☆第5回高校生ビジネスプラン・グランプリ ベスト100
- ☆ITC-J カウンسل No.3 第7回高校生スピーチコンテスト 第1位

- ☆第51回私学の書展 特選みなせ賞
- ☆第38回近畿高等学校総合文化祭兵庫県予選小倉百人一首かるた部門 第2位
  - ※第38回近畿高等学校総合文化祭徳島大会出場
- ☆第42回兵庫県高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門大会 A級優勝
- ☆the World Scholar's Cup (WSC) 2018 決勝大会 団体 Team Quiz 銀メダル
- ☆the World Scholar's Cup (WSC) 2018 決勝大会 個人 Scholar's Challenge:
  - 〈Special Area〉〈Literature〉 金メダル
- ☆the World Scholar's Cup (WSC) 2018 決勝大会 個人 Scholar's Challenge:
  - ・〈Special Area〉〈History〉 金メダル
  - ・〈Social Studies〉〈Art & Music〉〈Science〉〈Literature〉 銀メダル
  - ・Writing 金メダル
  - ・Debate 銀メダル
- ☆the World Scholar's Cup (WSC) 2018 決勝大会 個人 Scholar's Challenge:
  - 〈Social Studies〉 銀メダル
- ☆the World Scholar's Cup (WSC) 2018 決勝大会 個人 Scholar's Challenge:
  - 〈Literature〉 銀メダル
- ☆the World Scholar's Cup (WSC) 2018 決勝大会 個人 Scholar's Challenge:
  - ・〈Literature〉〈History〉〈Social Studies〉 金メダル
  - ・Scholar's Challenge: 〈Art & Music〉〈Science〉 銀メダル
- ☆高円宮杯第70回全日本中学校英語弁論大会兵庫県大会 第3位
- ☆税の書道 西宮納税貯蓄組合連合会長賞 (5名)
  - ☆税についての作文 西宮税務署長賞
  - ☆税についての作文 西宮納税貯蓄組合連合会長賞
  - ☆税についての作文 大阪国税局長賞
- ☆第9回 TG CUP 中学校英語暗誦大会 第2位
- ☆第4回英語エッセイコンテスト (エッセイ部門) 最優秀賞
- ☆第64回青少年読書感想文兵庫県コンクール 兵庫県知事賞

**第34回スポーツ賞 (20名)**

☆第71回西宮市民体育大会テニス大会 (少女シングルス) 中学生女子シングルス 優勝

☆第62回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技 女子団体の部 準優勝 (10名)

☆第15回兵庫県中学校秋季テニス大会 (学校対抗の部) 第2位 (10名)

☆第43回スポーツチャンバラ世界選手権 レディース小太刀 優勝

(中高部教諭)

**2019年度中学部入学試験結果報告**

日程：2019年1月19日(土)・21日(月)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	手続完了者数
135	262	256	155	146

(中高部事務室)

## &lt;課外活動紹介&gt;

[クラブ] **J 漫画・イラスト研究部**

中学部 1年生

J 漫画・イラスト研究部はJ1の2名のみで構成されています。月・水・金曜日の週3回活動しています。年に数回、部誌の原稿を作成し、できた部誌を愛校バザー・文化祭で販売します。去年の夏休みには京都で合宿をしました。合宿では、主に文化祭に出す部誌の原稿を描きました。宿泊先や食事はとても良かったです。また文化祭では、部誌・缶バッジ・シールを販売できました。ワークショップでは、文化祭テーマ‘if’に沿った、誰でも楽しみやすいことをおこないました。画材や行事が充実していて、部員同士の仲も良く、とてもアットホームな部です。

[クラブ] **S 料理研究部**

部長

週1～2回の活動では、料理だけでなくお菓子作りにも挑戦し、バザー・文化祭ではその成果を発揮しています。また、春・秋の子ども会、クリスマスには施設の子どもたちに手作りのお菓子をプレゼントしています。練習では、「喜んで食べていただくにはどうしたらよいか」を話し合いながら調理しています。何度も試作を重ね、味付けや切り方、調理方法を試行錯誤し、盛りつけやラッピングにも工夫をして皆さんに喜んでもらった時には、達成感と充実感を得ることが出来ます。

[クラブ] **J 演劇研究部**

中学部 2年生

**J 劇研へようこそ**

こんにちは、J 演劇研究部です。

私たちは月、火、木曜日の放課後にJ1とJ2を合わせた21名で活動しています。

基本的な声の大きさや表現力を身につける基礎練習、発声練習の他に年5回の舞台へむけた練習をするなど、内容は様々です。

講堂での舞台発表には他では味わえない緊張感があり、誰もいない講堂を独り占めできるのも、舞台系クラブの特徴の一つと言えます。

台本製作から衣装、演出まですべて自分たちでするので大変ではありますが、とても充実した素敵なクラブだと思います。

[クラブ] **S バasketボール部**

部長

S バスケ部は1年に6回の公式戦と文化祭招待試合のために、週に4回、練習をおこなっています。バスケットボールはチーム戦のため、1つ1つのプレーについて考え、意見し合い、全員が共通の理解を持ち、また、日々の試合形式のメニューや練習試合などですべてのプレーが繋がるよう心がけています。

現在はS2が3人しかいないため、文化祭の招待試合以降、公式戦には出場できていませんが、J3の12人と来年度の公式戦に向けてこれからも練習に励んでいきたいと思っています。

## 〈学院日誌〉

1月8日(火)	中高部始業日	2月16日(土)	文学部・人間科学部一般入学試験 〈前期C・D日程〉
1月9日(水)	中高部教員会議	2月27日(水)	理事会 中高部教員会議
1月18日(金)	教授会	3月1日(金)	高等学部卒業式
1月19日(土)~20日(日)	大学入試センター試験	3月6日(水)	教授会
1月19日(土)・21日(月)	中学部入学試験	3月7日(木)	文学部・人間科学部一般入学試験 〈後期日程〉
1月23日(水)	理事会	3月19日(火)	大学卒業式、大学院修士学位記授 与式 中高部教員会議
1月29日(火)	文学部・人間科学部一般入学試験 〈前期A日程〉	3月20日(水)	中学部卒業式、中高部終業式
1月29日(火)~30日(水)	音楽学部一般入学試験〈前期A日 程〉	3月23日(土)	オープンキャンパス
1月30日(水)	文学部・人間科学部一般入学試験 〈前期B日程〉 中高部教員会議	3月27日(水)	理事会 臨時評議員会 臨時理事会
2月13日(水)	中高部教員会議		
2月15日(金)	教授会		

## 目 次

変えてはならぬもの・変えるべきもの……………	1
KCC だより……………	3
2019年度年間標語……………	8
クリスマス報告……………	9
史料室の窓・神戸女学院、9にまつわる物語…	18
キャンパスお気に入りの場所……………	20
大学報告	
『Stories—私はまだ、私を知らない。』…………	21
2018年度文学部講演会を開催……………	21
「やりたい」を形に……………	22
Rakugo を世界へ……………	22
舞踊専攻卒業生ウクライナ公演……………	23
舞踊専攻第10回卒業公演……………	23
第9回絵本翻訳コンクール表彰式……………	24
「神戸女学院の100冊」書評コンテスト…………	24
神戸女学院大学音楽学部定期演奏会2018…	25
保護者会報告……………	26
2019年度大学入試結果中間報告(2/20現在)…	47
受入れ留学生報告……………	48
派遣留学報告……………	49
2019年度夏期語学研修参加者募集……………	51

研究所活動報告……………	52
女性学インスティテュート活動報告……………	54
私の研究……………	55
ゼミ紹介……………	56
課外活動紹介……………	57
学生の活動紹介……………	58
中高部報告	
高円宮杯に出場して……………	59
学びへの気づき……………	59
国際言語学オリンピック報告……………	60
大阪国税局長賞を受賞して……………	60
高校生東南アジア小論文コンテストに参加して…	61
お弁当コンテストに参加して……………	61
釜ヶ崎で学んだこと……………	62
冬山スキー……………	62
卒業生シリーズ礼拝報告……………	63
先輩からのメッセージ……………	64
第53回中高部長賞、第34回文化・スポーツ賞…	65
2018年度中学部入学試験結果報告……………	66
課外活動紹介……………	67
学院日誌……………	68

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。

11, 19, 27, 39, 41, 45, 46